

女子教育談

公爵近衛篤磨公演說  
侯爵蜂須賀茂韶公演說  
伯爵大隈重信公演說

內海勝忠君演說  
島田三郎君演說  
江原素六君演說  
成瀬仁藏君演說

東京書肆

嵩山堂發行

## 辯言

辱交成瀬仁藏君女子教育に従事する斯に數年  
曾て歐米に巡遊し女子教育の整備完全なるを  
目撃し大に感ずる所あり故に歸朝の後直ちに  
筆を執て『女子教育』を著はし教育界に向つて大  
聲疾呼して其の注意を促し朝野名士の門を叩  
き我國女子教育の不振を説き女子大學設立の  
必要を論じ東奔西走殆んど年餘是に於て乎朝  
野其の熱誠を嘉し其卓説を賛し乃ち女子大學

校を創立することとなりたり本年三月某日朝野名士東京帝國ホテルに相會するの席上に於て諸名士の演説を聞き其名論を輯録し女子教育談と題し遂に諸名士に乞ふて之れを出版し世の教育家子女の父兄及女學生諸君に紹介す

明治三十年四月

嵩山堂主謹言

女子教育談目次

日本女子大學校を紹介す	内海忠勝	一
高等女子教育の必要を論じ併せて其反對説に答ふ	成瀬仁藏	四
女子教育と男子教育との關係	公爵近衛篤磨	四一
國民教育の複本位	伯爵大隈重信	五五
日本女子大學校設立に就て	侯爵蜂須賀茂韶	七六
女子教育談	江原素六	八六
女子教育談	島田三郎	一〇二
女子教育振起策	成瀬仁藏	一二三

女子教育談目次畢

# 女子教育談

## 日本女子大學校を紹介す

内 海 忠 勝

予は今茲に謹んで將に創立せられんとする日本女子大學校を諸君に紹介せんと欲す予は特に此事業の主唱者たる成瀬仁藏君を紹介せんと欲するなり君が女子教育に志すや己に久し或は大坂に或は新潟に辛苦經營親しく女子の薰陶に従事せられしと茲に十有幾年君曾て慮る所ありて米國に遊ぶ其意旨に教育の學理を研究するのみならず併

せてその實況を洞察し他日大に本邦女子教育の爲に盡す所あらんと冀望せしなり君の米國に在るやクラーク大學に於て教育學を攻め其後諸方を巡遊して知名の教育家を訪ひ學校の組織及其實狀を探り自ら寄宿舎に泊して學生の氣風を察し教師の宅に同居して家庭の有様を視錦を胸裡に包みて歸朝せられしは去ぬる明治廿七年なりき歸朝後女子教育と云ふ一書を著はして本邦の女子教育に對する意見を公にせられたり君今や遂に積年の素志を貫かんが爲に日本女子大學校の設立を計畫せらるゝに至れり君が此計畫に従ふや東奔西馳維れ日も足らず是に於てか四

方の有力家にして此舉を幫助せんとする者日に多きを加へ創立の時機今方々に熟せり君性敦厚真率艱難に遇ふて挫折する人に非ず利名に迷ふて旨義を變ふる人にあらず予は教育家たる名譽を君に呈するを辭せず故に予は茲に欣んで成瀬君を紹介し特に女子大學校設立の計畫を賛成し猶進んで同志諸君の助力を仰かんと欲す

高等女子教育の必要を論じ  
併せて其の反對説に答ふ

成瀬 仁 藏

貴顯紳士諸君本日不肖の私が諸君の御面前に立つて卑見を開陳し且つ私の熱望する所を訴ふることを得まするは實に光榮の至りに存じます。今や多事多望の日本帝國の代表者たる諸君の前途には政事問題や社會問題や其他種々の時事問題や國家百年の計畫などを實に澤山の問題が山の如くに横つて居り升諸君は凡て此等の問題や經營に付て討議研究を凝され維れ日も足らずと云ふ有様で御座りますすが此等の問題の中には確

かに教育問題が這入つて居るふと存じ升此の教育問題は貨幣問題のごとく築港問題のごとく國防問題のごとく外交問題のごとく殖産商業等に關する問題のごとくに焦眉の急務と云ふべき問題でなくズット後廻はしにしてもよい問題でありませふ乎私は斷じてそふでないと思へます。如何となれば公平無私の心を以て全般の問題を攻究するに當りまして段々煎じ詰めますると結局は必ず教育問題に歸着せざるを得ぬのであります善きも悪きも其原を釋ねますと何事も多くは教育の善惡に因ります支那に勝つた支那が負けたと申しまして其功過は必ず教育に歸し

ます、社會が腐敗する、風俗が紊亂すると云つても其の本は心こころにあり、家庭かていにあり、遺傳いでんにあり、其の心こころ其の遺傳いでん、其の家庭かていの善惡は多くは教育けいよくより來るもので、決して自然しぜんのみではありませぬ。我兵わがへいの体力たいりよくが弱よわひ、體軀からだが小さい、丈たけが低い、之れは如何いかにすべきか、教育けいよくに依るより、外任はかりしかた方は御座りませぬ。國くにが貧乏ひんぱだ、何如いかにして之これを救ふべきか、大に殖産工業しよくさんこうぎょうを起し、大に商業しょうぎやうを營いとなむべきであります、之これを起し之これを營いとなむには、智識ちしきが必用ひつようです、然るに智識ちしきを興おこふるものも、亦矢張またやはり教育けいよくです、勿論もちろん之これは私の喋々わたくしするまでもあります、せぬ。この重要じゆうじやうなる教育問題けいよくもんたいは、早晚そうばん必ず社會しゃかいに起るべきで

あります、否いな既に起りつゝあるのであります、既に其の徴候ていこうが見えて居ります、之これを要もとしますに、教育けいよくは實に國家こくかの盛衰せいすい消長しょうちやうする所以ゆえんの基礎きそであります、一、體國家たいこくかの滅亡めつじやうする所以ゆえんのものに、二、つの原因げんいんがあります、一、つは外部くわいぶより來るもので、他の一つは内部ないぶより發するもので、御座ります、外部くわいぶより來るものは、兵力へいりよくでありますから、亦兵力またやはりへいりよくを以て之これを防ぐ事ことが出來ますが、内部ないぶより發するものは、其發するや、隱微いんゑいの間に徐々じゆじゆとして發します、恰あたかも深夜しんや熟睡じゆくすい中ちゆう洪水こうすいに襲おそはるゝ様ようであります、而して此強大このきやうたいな敵てきを防ぐものは、教育けいよくの力ちからで御

座ります。教育はたゞ之れを既發の後、に防ぐのみではありませぬ、まだ敵の起らぬ前より之れを防ぐものであります。只に之を豫防するのみでもありません。國家をして益健全強固の生長を遂げさせるもので御座ります。故に古今東西の區別なく教育の振ふる國は榮え、教育の衰ふる國は衰微して居ります。ペルシヤが往古西亞の天に雄飛したるのは、乗馬に巧に弓術に長け、虚言を吐かぬといふ教育主義が雄飛させたのである。 그리스がマラソンの役で彼のペルシヤの大敵を歐洲の天地から打ち拂ふたのは、希臘の尙武主義、教育が打ち拂はせたのである。殊に女子教育が有力のもの

でありました。母親が其子の出陣の砌に楯を與へて敵を殺すか、然らざれば自ら之れに乗りて歸れど命せしが如きは、其一例で御座ります。即ち此尙武的精神を先づ第一に婦人に吹き込んだ。羅馬に於ても尙武教育の旺盛を極めた時代は、ローマ帝國膨脹の時代でありました。我國でもそうでありませぬ。徳川幕府の際盛を極めたるも、代々の將軍が教育を尊重奨励したからで御座ります。斯様に國家の興るのは、教育の振ふるによりませぬが、其亡ぶるのも亦教育によりませぬ。徳川幕府の亡びたるも、ギリシヤ、ローマの亡びたるも、一ツ教育の道に過まつたからで御座り、升故に今日に於きまし



ても競て教育を盛にするといふは歐洲諸國の實況で御座ります佛國の敗軍獨乙の勝利は教育の勝敗だといふ程になつてをりまして、其後佛國は大に教育殊に女子教育にも着眼する様に立ち至りました。

然るに我國の教育の現状は如何でありますか。振てをりますか。完備してをりますか。普及してありますか。今日の有様で安心して居つて宜敷う御座りますか。一体國民を教育してをりますものが四つあります。天然と社會と家庭と學校であります。天然は國民を教育するに有力なる感化力であり、社會は國民を教育するに有力なる感化力であり、家庭は國民を教育するに有力なる感化力であり、學校は國民を教育するに有力なる感化力であり、是は人爲を以て自由に變更する事が出来ませ

んから論外と致しまして、先づ學校教育の現状より考へます。如何で御座りますか。人口凡そ四千五百万の我國と、人口凡六千万の北米合衆國との状態を比較して見ますに、日本には大學が二校と高等學校が六校で而かも此二つの大學と六つの高等學校は無論女子に入學を許してをりません。本邦で女子に高等の教育を授けて居るのは女子高等師範學校のみであります。其内専門教育を施すものは只一校のみです。而して米國に於きましては大學と稱するものは三百五十七校で、其中女子に入學を許すものは實に二百三十七校で、又東部には純粹の女子大學が九校もあります。

又大學女生の總數は、四萬二千六百六十三人で、男生六十に女生四十の割であります。我國では大學に女學生といふものは勿論ありませんが、専門學校にをきましては男生九十九人に女生一人であります。中學校にては我國では男生九十人に女生十人でありますが、米國では公私平均で男生四十四五に女生五十四五であります。本邦の師範學校では男生九十一人に女生九人でありますが、米國では男子十七人に女生八十三人であり、普及すべき普通教育に至つても學齡兒童就學兒童との比例は六十と四十であります。故百につき六十はいろはのいの字も識らぬ國民を造てをる

ありさまで、而して小學正教員の不足は現今二萬人といふ多數であります。之れはほんの大略であります。之れでも本邦教育の上進と普及の情況は大底分かると思ひます。加之、學校教育の精神といふものが鈍れてをります。學校といふものは智識は與へるが人物は却て悪しくするものだと思ふ様になつてをります。目下流行の學校騒動といふものも詮する處教育の精神が鈍れてをるから來るもので御座います。併し學校教育の不首尾といふものを悉く學校教育の過失の様にいふ事が流行つてをります。其過半は家庭も其責

に當らねばならぬ遺傳といふものは個人の發達を妨げ又は促かすものであります。其由て來る處は主として家庭にあります。故に遺傳からいふても家庭の善悪は大切なものであります。又小兒教育より申しますれば家庭は其全權を掌握して居ります。或る西洋の教育家が小兒の教育は生前二十五年換言すれば父母の教育より始めざるべからずといふたのは遺傳の大切な事をいふたものであります。又本邦で三歳兒の精神百までといふのは家庭教育の必要をいふたものであります。又小兒が學校教育を受ける様になりましてもなほ家庭教育は教育の半部を負擔してをり

ます。然るに小兒の教育を學校に一任して出來るものと思ひ若し小兒の品行が治まらぬときは罪を學校教育者に歸する事を知つて家庭の大いに之れを妨害して居ることを顧みないのは誤りの甚しきものであります。近衛公爵も御述べてござりましたが教育に従事して居る者が一番困つて居るものは家庭教育の不完全と云ふ事である。幾ら學校で氣を揉みても家庭が悪ければドウしても教育する事は出來ない。それで私は今日の教育界にある弊害と云ふものは其の大部分は家庭に其罪を歸せねばならぬ。それで今日の現状はドウしても家庭教育が完備した家庭教育が振ふ

て居ると云ふ事は言はれぬと思ひます  
次に教育は學校と家庭のみでは出来ぬ是非とも社會教育  
の加勢を得ねばなりませぬ——社會が善くなければ本當  
の教育は出来ない天然教育と家庭教育と學校教育と社會  
教育との四つが揃はねば人を作る事は出来ない然に目下  
の社會は教育を妨たげてをるではありませぬか青年を腐  
敗に導びく所の機關は全備して居る青年を鈍らす所の勢  
力は振ふて居るが社會の青年を教育し國民を教育する所  
の點に至つては亂れて居るばかりでなく實に眠つて居り  
ますそれは私が此で申す必要はないと思ひます町を歩き

て直ぐに青年の耳に入り青年の心に這入るものは何かと  
云ひますと如何なる音樂が何處にも聞えて居るか其他演  
劇文學奢侈遊佚遊惰の悪習輕薄懦弱射利奔名の弊風は如  
何であると思ひますと社會の中で人々を教育する所の機  
關が備はらずして却て之れに反對の勢力は打揃ふて蠟の  
如き柔き脳髓に不道德の印を押して居りはせぬか然るに  
之に反抗すべき社會教育の勢力は如何でありますか之を  
亞米利加の社會教育に比較すれば我國は大に之を怠つて  
居ると思ふは是は一一此で申す事は出来ませぬが亞米利加  
で男女共高等の教育を受けたる者は社會教育に目を着け

ざる者は赤い色々な所に住居を定めて教育の無い者と交際を求めて社會の勢力の及ぶことを望んで居る。大學殖民等であります。又通俗講談に非常に金を掛ける然るに吾が國にては大學通俗講談會のみでしかも未だ社會的的教育力とは成てをらぬではありませぬか又米國にては音樂といひ美術といひ大に教育的勢力を振ふてをります。其他俱樂部とか一々其例を擧げたいであります。時間もありません。申す事が出来ませぬが是れ皆な國民教育をしようと思ふならば社會に大に注意を要する譯であらうと思ひます。然るに吾が國にては社會的的教育は殆ど緒につい

てもをりませぬ。其の勢力となるべきものは皆敵となりてをる有様でござります。此の様に先づ外形から見れば私共は我國の教育は振ふて居る是れで宜しい是れならば我が日本國民を養成するに足るとはドウしても思はれぬ。此の様に振はぬと云ふ事色々足らぬ所があると云ふものは此に一の原因があるです。是は教育の精神が鈍つて居る、即ち精神がない、教育が機械的に流れ形式的に陥りて居ります。是のも、詮する處教育の精神が鈍つて居るからで御座ります。是は社會にも家庭にも學校にも教育と云ふ精神が鈍つて居るからであらうと考へます。私はクンプリツヂに暫

く居りましてへネスと云ふハーヴァード大學の教育學教授に交際致しましたが、ケンブリッジは亞米利加で一番教育の盛んなる處でござります。然るに自分の娘が十六七になつて居るに學校に遣らぬなせ遣らぬかと云ふに、學校教育を不完全と思つて居る、それで夫婦かゝつて家でやらせて居る學校へ遣れば樂なのに、時の無いのに自分で教育して居るものは、それだけ教育と云ふ事を重んじて居るのでござります。我國は如何でござります。兩親が子女を學校へ遣れば教育は出来るものと思つて居るが、教育は學校にのみ任せて決して出来るものでない、家庭で出来るのである。學校

は唯々家庭教育を補ふものである。然るに家庭教育を面倒に思つて構はずして、唯々學校に任せて置けば出来るものと思ふは大變な間違である。其他亞米利加の小學校でも大學でも廻つて視ると必ず一の新説を聞き、新發明を見ることが出来ます。其れはドの大學に行つても教育學の講座を設けて深く教育學を研究し常に新發明を爲しつゝある之は何の大學にもある。然るに我が帝國大學に於ては文科に於て一の教育學の講座がござりました。故日高文學士が死なれて其の後を繼ぐ者がなく、廣い日本に一の教育學の椅子を保つて行く事が出来ぬ。又必要のさいとは

如何に教育思想に冷淡であると云ふ事が分つて居らぬかと思ふ色々々の事業の中に人に一番見えぬは教育である教育はドウでも宜い、教育家に任して置けば我輩の知る所でないといふ様も教育の精神が鈍れて居る故に教育が振ふて來ぬのである、精神のない身体は死んだ身体である、精神のない教育は骸骨同様と言はねばならぬ。

それで私が日頃感じて居りますのは、ドウしても我帝國を偉大にし國民を育つる上に於ては教育の精神を社會全般に吹込まぬ以上は發達致しませぬ一般社會に吹込まぬと欲せば是非之を女子に吹込まねばならぬ然るに女子教育

は如何に待遇されて居るかといふに一番振はぬは女子教育である、一番人から嫌がられるのも女子教育である、一番人が冷淡にするのも女子教育である、女子教育と云ふ聲を聞さへ人心を寒らしむるといふ有様であります、斯ういふ不遇の有様に陥つて居る、斯うして斯ういふ有様を招いたのは一は社會の罪である、又男子の罪である、又一は失敗の罪である、又弊害の罪である。

併し弊害があればある程益之に従事せねばならぬではありませぬか、不完全であればある程愈々之に熱中せねばならぬではありませぬか、然るに失敗に辟易し弊害を恐れて、

女子教育を擯斥し、又は之を冷遇するのは目下一般の傾向ではありませぬか、是れ實に遺憾千萬なるのみでありませぬ。實に國家の一大不幸であります。之が私共が日本女子大學を創設せんとする所以であります。之れに依つて教育の精神を社會一般に吹き込み之に依つて女子教育の弊害を矯正し之に依つて女子教育の普及改善を計り、之に依つて女子教育の模範を造り、之れに依つて家庭の刷新を促かし、之に依つて社會の風習を改め、之れに依つて教育一班の發達を助けんと思ひます。之れ日本女子大學校を創設する所以であります。目的であります。茲に其方針と方法を充分に述べたい。

と思ひます。が到底僅少の時間では述べ盡す事は出来ませぬ。せんから今日は只日本女子大學校といふ新らしき名を公に致します。に付き、直ちに諸君の心頭に浮び来る疑問に答へる式に致したいと存じます。

(第一の疑問)は女子に大學が必要なるやといふ事でありませう。今女子大學の盛なる英國に於きましても高等教育を授けんとするや、反對論者は高等女子教育を主張するは神に對しては罪惡政府に對しては叛逆だと申しました。米國にても今より二十有餘年前女子大學を設けんとする際に世人は嘲弄して、女子の爲めに大學を設くるは恰も猫に學



校を設けてやるのと同一大と申しましたが、今日は最早こ  
ういふ説を吐くものはあかるうと思ひますから茲に辨ず  
るとは止めませう。

(第二の疑問)は教育の順序を誤つて居らぬかといふ論でござ  
います。が、女子大學校と云つても帝國大學に比する様な  
ものではござりませぬ。又米國の様にせねばならぬと云ふ  
のでは素よりござりませぬ。今日は女子教育が尙ほ不完全  
であるからモウ少し高進せしめ之を完備に至らせたいと  
云ふのである。徒らに學科のみを高めうといふのもあり  
ませぬ併し學理を構はぬと云ふのもありませぬ。學理も

大切なものと思ひます。看病にしても料理にしても、家庭の  
事にしても精神上の事にしても十分改善しやうと思へば  
學理も高める必要がござります。けれども順序を誤つて教  
育を施す積りではござりませぬ。本邦現時の女子の体力智  
力に應じて順次に高進するの策を取る積りであります。(女  
子教育振起策を參考すべし)

(第三の疑問)は女子大學は初等教育の妨げにならぬかと云  
ふ説が起るのでござりませぬが私は之は九で反對に考へ  
るものであります。大學校を起すのは女子教育が普及せぬ  
故之を起して普及を計らうと云ふのでござります。我國で

も最初に初等教育が出来ぬからと言つて、大學校を起さなかつたならば、今日の如く初等教育は普及せぬ、亞米利加でも大學校が多く起つて、初等教育が發達した事でござります、其理由は多くござりますけれども、是も略して置くことに致します、是に關する理由は女子教育振起策に詳論せり、(第四の疑問は女子大學校はまだ早い其時機が來ないといふ事でござります、是も他の國の歴史に就て考へて見ますに同じ事である、さう思ふは當然である、今から二十年前マサシユセツツに於て、スミス女子大學校を起す時に反對が有りました、今でも此の大學の總理シーリーと云ふ人が二

十年前即ち該大學を起す時に二十年前に四十人丈けの大學生を得るに至れば満足だと思つて居つた、此のシーリー氏は二十年前に之を必要と見認めて着手したが二十年後の今日現在生八百人以上居る、卒業した者は何千人である、か實に多數であります、然ればその時にそれ丈けの必要があつたのでござります、是が必要になつてから着手しても間に合はぬ、大學校は段々に成長せしめねばならぬから、今日より二十年三十年五十年先の事を考へて着手せねばならぬ、急に其必要があるからと言つて遣つても役に立たぬであります、且つ現時高等女學校を卒業し其より進むの

道なきに苦しむものを随分見當ります故に早過ぎる事は  
 ないと思ふ。

(第五の反對)は學校が是迄の程度ですら女が生意氣になる、  
 しかるにいま是より尙ほ高くして尙ほ生意氣になれば、  
 ドウするかと云ふ事でありませふ學問が女を生意氣にする  
 と云ふものは無實の罪を教育に歸するものである。成程今  
 日の女生は生意氣なるが多いが、是は教育の罪にあらずし  
 て教育法の罪である。又教育者の罪である。此頃或る學者先  
 生に面會致しましたが、其時先生は女子教育は反對である、  
 小學校でよい、それから上に行くとは生意氣になるといはれ

ましたが私は先生の様な高慢な人に教育を受ければ男で  
 も生意氣になると言ひたかつたでござります。さう云ふ人  
 に教育を受ければ生意氣になりませうが教育は人を謙遜  
 にするものである。亞米利加は婦人の権利の盛んな所で女  
 の活潑な處惡くいへば女の粗暴な所であるけれども、此粗  
 暴を直すは教育である。亞米利加を彼方此方へ行くと女は  
 粗暴であるけれども、大學校に這入つて學んだ婦人の家庭  
 に行けば女らしくて悪るいものを退けて仕舞ふた善い女  
 がある。教育が高慢心を造るにあらず、教育法と教育者の惡  
 るるのでござりませう。それと生半着の教育をすれば男で

も生意氣になる、ホンマに徳問が出来た人は遜謙である、生意氣は半學問の熱せぬ書生にある人間は智識が高まるか、地位が進めば遜謙で柔和にある心が清くなる小役人より大臣になれば謙遜である、亞米利加でも總理とか校長とか云ふ様な人は柔かく小供らしい進む程謙遜なものでござります、私は高等教育をしてホンマに女を造つたならば、ホンマに女に高い智識を興へれば、さういふ弊を矯める事は出来ると思ふ、今日女學校の弊は教育を興へずして直すことは出来ぬが教育を興へて直すことは出来ると思ふ、

(第六の疑問)は徳育法はそふぢやるふが主義はどふだか純

粹の日本主義か歐米主義かと云ふ説があらうと思ふ、私は内を主にして外を客にし、武士風家庭の精英を標的と致し、まして之を補ふに外國の長所を以てするので、す即ち忠孝節義の如き日本固有の美德は益々之を發達進化せしめ、同時に諸種の缺點は之を矯正し、萬國の最も秀でたるものを取り、我國のものにしたいと云ふ考へでござります。

(第七の疑問)は學校教育は人情に疎くなる、世に處する事を知らぬやうになる、交際が下手になると云ふ評であります、是もホンマでござります、是も寄宿舎で養ふて居るのでござります、寄宿舎を改良せねばならぬ、今日ある者は兵營

的である、監獄的である、故に寄宿舎を家庭の様にせねばならぬ人は温かい内に育てねば温かい心を持つた者にならぬ、今回は寄宿舎にては一軒を家族制に改めまして數多の別戸寄宿舎を設けて各戸を一家族と見做し全舎を一族新類と見做し家具裝飾等本邦家庭の善良なるものを摸範と致し日々家庭の生涯を營む様にしたいと思ひます、然れば掃除もせねばならず、お客の相手もせねばならず、面倒も見ねばならず、万事家庭の境遇に遠からぬやうにせねばならぬ、せぬですから、中の仕組も家庭の様にして母の様な舎監を置いて其中に家庭の様な精神を吹込みたいと思ひます。

(第八の疑問)はそれはよいがさう云ふ舎監が在るかといふのであります、是が素より我國で一番困るところです、けれども私は此處でさういふ人を造らねばならぬと思ふ、ドウも善い母がない、善い妻がない、善い教師がない、故に此の學校の必要が起るのであります、併し赤がらそふ善い教師は皆無いといふとそふでも、いから今稀にある人物を集めて追々此の目的を達するの法はあると思ひます、是も時が足らぬから今日は畧しやうと思ひます、是迄に八ツの疑問に答へました、之は精神上に關する疑問でしたが尙ほ身體上に關する疑問が必ず出ると思ひます。

其は女に教育を授ければ女を弱くすると云ふ説がありま  
す、私は之に反對の考を持ってをります、日本人は弱いである、  
小さい是は丈夫にならねばならぬから高等教育をせねば  
ならぬ成程女學校の生徒は弱いとか脊が屈んで居るとい  
ふ統計を見る、男子の大學校もさうである、大學校に這入る  
と段々弱くある、量目が減つて來て、弱くなると云昔から學  
問で死んだ者が随分有る、亞米利加でもさうであつた、クラ  
ークといふ人の書物にも多くの女子教育の弊が擧げてあ  
るけれども今日は米國にては丸で違つて居る、今日は大變  
丈夫になつて學校に這入つてから卒業して出迄には、肺量

が増えて居る、身體が重くなつて居る、又學校外の婦人より  
も學校内にゐる婦人が健康である男子もさうで、大學生徒  
は身體が重くなつて居る、それは體育の奨励と體育學があ  
つて大學生徒も兵隊や力士の身體を鍛ふやうに遣つて居  
る、毎日統計を取つて遣つて居る女子の方もさうである、最  
う一ツは體育學と云ふものが起つた是は昔から國の榮え  
た所は、グリシヤでも羅馬、獨逸でも英國でも體育を重んじ  
て居る、又體育學が盛んに行はれて居る、是は醫學と生理と  
解剖から成つて居るもので、醫學の智識を女子に與へねば  
ならぬ、又國民に與へねばならぬ、是は日本女子大學校に體

育部を置た所以であります。體育の教師を拵へて之を諸方の女學校へやつて、此體育の精神を起したいと云ふ考へでござりませす。英國の諺に人は三十に成れば醫者か馬鹿かと言つて居る米國にては年二十に成て身體自衛の道を知らない婦人は馬鹿だぞ申します。が自衛の習慣と知識とは女子の身體を健全にし道徳を健全にしかつ小兒を健全にするに是非欠くことができぬ故に日本女子に醫學の思想を與へねばならぬ。日本の女に是非教へねばならぬ事が澤山有る。又之を實行させねばなりませぬ故に女學生には時間の許す限り自然又は洒掃の勞を取らせて勞働に習はしめ

勞働は神聖なるものである。決して嫌惡すべきものでない。輕蔑すべきものでないといふことを知らせかつ身體と心靈をも鍛はせねばなりませぬ。それで高等教育を主唱するは、身體を悪くするにあらずして之をドウか取戻さうと云ふ企てでござりませす。

是迄種々申し上げたが、時がござりませぬ。是で終ります。でござりませす。が諸君の中に私の説に御同意であつても或は反對の點が有るにしまして、も女子の教育と云ふものは國民の爲め一日も忽せにすべからざるものであるといふこと。今日の儘で抛つて置くべからざるものであると云ふ事

は御同感であらうと思ひます、ドウか諸君は、此女子教育の爲めに御助力下さる様に切望致します、尙ほ先輩諸君の御高諭を仰ぎたいと希望致します。(拍手大喝采)

女子教育と男子教育との關係

公爵 近 衛 篤 麿

學識共に甚だ乏い者が諸君の前に立つて御話を致すと云ふ事は、甚だ恥入る事でござりますが、是非今日の御集會には何かお話をせよと云ふ成瀬君からの御話でござりまして、唯々簡單に女子大學設立と云ふ事に就て賛成の意味を述べやうと思ひます。

此の女子大學校の御主意に於きましては既に主意書にもありまます通りで固より繰返して申述べる必要もないのでござります、私は此の女子大學校設置と云ふ事に就て賛成



すると云ふものは主意書のみに由てではありませぬ平生の經驗上から感じた事もありまして、最深く賛成する次第であります。其事を一寸御話し申しまして、今日之責を塞ぐ積りでござります。其の經驗と申しても僅か兩三年以來の事でありませぬ。私は華族の子弟を教育する學習院に從事して居りまして、誠に淺い年月でござりますが、種々の生徒殆んど七百人ばかりを日々見て居ります。殆んど七百人七種の性質を有つて居ります。是は殆ど人が顔つき異なると同じ事でござります。けれども、其中に學科の上の成績の善い悪いは、姑く措いて性質が格別面白くないと思

ふ者もあれば、或は餘程勇壯活潑の者もあれば、又は極々沈着にして、随分大事に堪へさうなど云ふ者もある。大体分つて見れば、悪い方にも種々あります。それは除けた所で、勇壯活潑と云ふ方の側から勇壯な者と沈着にして極く騒がしくない即ち大事に堪へ得らるゝと見る様な兒童も随分ある。其等の子弟の性質と云ふものは、固より天性ではあらうけれども、其の天性を養ふものは別であらうと考へます。是は家庭教育と云ふ事が餘程手傳つて居らうと思ふ中、でも性質の善ささうな成績の者に眼を着けまして、其の家庭を段々聞合はして見ます。と云ふと、必ずさういふ生徒の家

庭と云ふものは餘程教育と云ふ事に眼を着けて居る父母  
 共に充分に兒童の教育に注意して居る家の子弟でござり  
 ます。一つ例を擧げて見ますれば、ある日學習院の生徒を連  
 れて江の島へ水泳に行つた時年齢に従つて組を分ちて寺に  
 宿たところがある。その時夜の九時頃になつて誰か後の山へ登  
 て來るものは無ひかど多くの生徒に尋ねました。處が誰も  
 行ふといふものはなかつたが、たつた一人年齢満十一歳に  
 なる兒が私が行ますと云つて勇しく暗夜を犯して山に登  
 つて來た。是を誰とするかといふに尤も教育に富む又子女  
 の教育に周到なる大山侯爵夫人の御子息で有りました。又

一方の悪い方の側の家庭を探つて見ますと種々家内に波  
 瀾があるとか、或は父どか母どか云ふ人が素行の修まらぬ  
 人の子弟である、或はその母が其の子の爲めに或は寒さ暑  
 さを氣使ひ、或は風雨を氣使ひ、或は病身になるを懸念し、或  
 は之を懦弱の遊びに誘ひ、或は之に娛樂の品物を與へなご  
 して遂に其の精神を鈍らし、勉強の元氣を銷磨したと云ふ  
 事は一概には云へぬが、せうも平均して見ればその様に見  
 えまます。かゝる家庭に生長するものは假令鱗兒たりとも鳳  
 雛たりとも遂に風雲を蹴り垂天の翼を張るに至らざるの  
 みか、却て懦弱放蕩の不心得に陥り必竟する處痴漢となつ

て終るに至ります。古往今來何れの國何れの時代を問はず、所謂賢母必ず俊兒を養ふと云ふ諺のある通りで御座ります。之れは私が申さぬでも分り切つた事でござります。が學習院の學生の家庭の事に就て深く感じました。其中でも家庭の關係を有つて居るは父よりも母であります。父は随分立派な人であつて、社會でも重んぜられて居る人であり、或は色々樞要の地位に立つて居る人々でありまして、その兒童の性質の面白くないと云ふ様な者が偶々見當る様であります。其等は一方の家庭の教育の行届く行届かぬを見て、それは随分母の方が悪いと云ふ事が見當

る。して見れば家庭教育の主たる働きをする者は即ち母である。母たる人が餘程教育と云ふ事に眼を着ける人でなければ生れた所の子供は矢張り其の性を稟け續ぐものである。か平生見習ひするから、兎角習ひ性となつて善い結果を見ぬと云ふものであらうと考へらるゝ是が女子教育と云ふ事に就て力を盡くさねばならぬと云ふ事を感じました。一理由であります。

併しながら學問は果して賢母を造ることが出来るのである。か女子教育の弊たる既に亦蔽ふべからざることにあつて居ります。今日は女學校も澤山あり又其より卒業して



くば高尙の思想に教育せられたる者の内には、多く淑徳温厚の貴女所謂深く韜んで顯はさず、誠に敬服すべき婦人の多きかに存じます。日本今日の失敗も、必竟する處、初經驗の爲め矢張政治商業其他のものも、一時種々の弊を蒙りたる如く、女子教育にも亦其の弊を蒙りたるものと見て、差支あかるうと存じます。成瀬仁藏君は、永く女子教育に従事しかる種々世界各國の女子教育を研究されまして、其の弊の來る所治療のある所、其の體育は如何其の智育は如何其の德育は如何と、茲に條を分つて研究をなし、之を我邦の必要に當て、箱めて其の用ふべき所、其の棄つべき所を深く考へ、茲

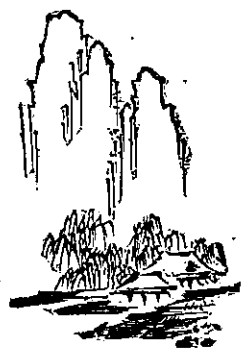
に模範的の一大女學校を起さんことを企てられたること、御座ります。今其の趣意書を觀、其の説を聽くに、成程從來の女子教育とは、其の面目を異にする様に思ます。而して拙者が大に之を賛成した所以のものは、一は學習院の生徒の性質は母の性質を稟け續いて居ると云ふ所から考へて起し、一は日本社會の女子が女學校を卒業してその成績が充分に面白くないと云ふ所から感じまして、此の二の點からであります。

此の女子大學校は、ドウいふ働きを爲すか、其れは未來の事でありまして、今日より推測する事は出来ませぬけれども、

私共賛成した以上は賛成しただけの充分及ふだけの力を盡くし發起人及び賛助員も力を盡くし心付いた事あれば之をその局に當る人に注意し或は社會に現はれたる女子の有様に就て痛嘆する事あれば亦た之を矯正すると云ふ事の考へを女子大學の當局者に話をして賛助員發起員は常に怠らず注意して行けば必ず好い成績を見るであらうと感じます。それで私は此の學校の成立つ事を希望するのみならず將來に於ても充分の力を盡くして發達せしむると云ふ事を諸君の前に誓ひたいと思ひます。諸君に於きましても必ず此の事柄には御賛成であるふと

思ひます。賛助員とか云ふ名義を御持ちかドウか知らぬが、其の名義の有るに否とに關はらず御賛成である以上は私の申した様に常に御注意がなければ立派な學校を造る事が出来ませう。其の結果は必ず未來に於て立派な國民を作る事になるであらうと思ひます。雷に女子の教育が進まぬから其の教育をして智識を開かしむると云ふだけなく、目的は女子其ものでなくして私の目的は未來の國民と云ふ事にあるのであります。諸君も亦必ずや御同感と察しませが茲に一言近時の所感を述べて賛助の意を表する印と致しました。願くは諸君も御賛同ありたいものと存じま

す(拍手大喝采)



國民教育の復本位

伯爵 大隈重信

諸君今日は成瀬君より諸君に向つて何か一言述べ様にと云ふ事でありました實は私は教育家でない就中女子教育と云ふ事に就ては學んだ事もなく亦其れ程深く注意をした事もない夫れで甚だ迷惑であるから御免を蒙りたいと云つて再三辭退を申したけれども是非何か述べる様に云ふので不肖を願みす一言述べやうと思ひます。昨年成瀬君にお目に懸りまして女子大學を興すと云ふお話を承りまして始めて始めて女子大學の大切なる事を承りました

た。一体私は學問と云ふ者はない、又教育上の智識も經驗も無いに拘はらず、成瀬君の女子大學設置に熱心な賛成を致し、且つ御依頼に依て多少知る所の友人其他に向つて、成瀬君の爲めに此大學に力を盡すやうに誘導して呉れど頼んだ、ソレに就て私は成瀬君の説を聞いて、少しく感ヒが起つたから、其感ヒの起つた所以を一言しようと思ふ。

漠然たる話の様であり、私自身が常に感じて居りますのは、先刻から色々細かな御議論がありまして、又近衛公爵よりも家庭教育の大切であると云ふ事を述べられました、が、アマ少しく夫に類するやうな事もあります。

思ふに誰でも國を富まし、兵を強ふし、以て國家万年の基礎を鞏固にすると云ふ事を願はぬものはありますまい。資本家が資本を投じ、事業家が事業を營むのは、只徒らに自己の福利を慮り、一家の繁榮を祈るが爲めのみではありますまい。眞とに國を富し、兵を強ふし、以て國光を八表に輝かし、又國威を万世に垂れんが爲めでありませう。けれども、商賣が如何に繁昌するも、産業が何程隆盛に趣くも、將た亦個人の所得如何に裕かに國庫の歳入が幾ら充溢するも、更らに亦鐵艦海を蔽ふも、獵獅野に滿つるも、未だ以て必ずしも國家の基礎鞏固ありとは申されません。眞個の富國強兵とは、



單に國民の財力重きの謂ではない、又海陸の軍備の整へるを申すでもない、勿論富と兵とは治國の要具には相違ありませんが、國家の生命を維持發達せしめて其基礎を堅固にするものは、尙ほ別に其奥に潜伏して存して居ります、即ち國民の智識及び性格の二ツであります。

金錢は確かに一の勢力であるが、逆ても智識の勢力の旺盛なるには及ばない、蓋智識は造化兒さへをも捕へて奴隸となし人間の使役に供し、以て其福利を増殖し、その開化を促進致します、若し夫れ火輪車の海を驅り、鐵車電車の陸を馳せ、電線の音信談話を傳へ、郵法の書信貨物を運ふといふこ

とがなければ、どうして交通が自在なる事が出来ませう、既に交通自在ならず、其上に尙ほ銀行の制度が設けられず、手形の交換が行はれねばならぬ、どうして商業が振興興りませう、工業の發達は、工學の發達に伴ひ、農業の進歩は農學の進歩に従はねばならぬ、如くに國民の強健は生理衛生醫學の力に頼らなければならぬ、而して文學哲學の感化が深大でなければ、人心の壯麗崇高は得て望まれない。

諸前述べました通り、智識は疑もなく大勢力であります、が、性格は更らに深遠重大なる意義を有する勢力であります、蓋し元來智識と云ふ者には善惡は無いので、之を用ゆる者

の正邪に由て善惡の區別が初めて起るのである。而して智識なきの性格は、俗儒の所謂君子と云ふべき、愚直爲すなきの國民を造るの恐はあります。が性格なきの智識は國民をして猾智譎詐を事とし、上下交利を貪つて所謂我あるを知つて他あるを忘れ、個人あるを知つて國家を思はぬので、彼私の信用は地に墮つて、實業も振はない、社會の徳義は紊亂する風俗は頽敗する國勢をして日に月に凋衰せしむるの虞あるのであります。

全體性格の骨子とも云ふべきものは、信實でありまして此信實が無ければ相互の間に信用の存する餘地はありませ

ん、而して信用の存する餘地が無ければ例へば假令銀行手形の便利を知り、之れが制度を設けたとしても、何の役にも立ちません。然るに我國民間に於ける手形交換の現況果して如何だかは諸君の熟知せらる所亦以て我が國民性格の高下を卜するに足るではありませんか。

申す迄もなく富強は國家の素望で在つて、智識性格は實に之れが根本であります。されば眞個の富強は決して一躍して獲らるべきものではない、必ずや深く其根本を培養し、其素養を確實にせねばなりません。而して其根本を培養し、其素養を確實にするものは實に教育である。されば眞個の富

強とは教育の基礎ある富強でなければならぬと謂はねば  
 なりませぬ。

明治五年學制發布爾來、我邦教育事業驟々乎として進み上  
 大學より、下幼稚園に至る迄、學校の設備大に整頓し、教授の  
 方法頗發達し、明治二十三年教育勅語を下し賜ふに及んで  
 や、德育の方針茲に一定し、教化益々四海に普く、明治二十七  
 八年役に至て教育の効果はますます、其光輝を發ち内外の  
 人士嘆美せざるはなき盛運に向ひました、けれども過去二  
 十有餘年間の明治教育と云ふ者は、男子教育に偏しはしな  
 いかとの嫌がありまして、未だ以て國民の教育が完備した

と申す事は出来ません。

一、此社會の源は何であるか國の源は何であるか云ふこ  
 とに就て考へて見ますると、先づ國民國民の源は何である  
 夫婦夫婦と云ふものは即ち有らゆる國の凡ての社會の原  
 素になるものであります、然るに遺憾ながら日本に於ては  
 此男女の關係と云ふものが甚だ漠然たるもので、先づ概ね  
 何事にも服従と云ふ義務を教ゆる他に何も無い。一寸譽を  
 申すなら、近頃貨幣の問題が世の中に盛になつて参りまし  
 たが、其貨幣問題には色々説がある、單本位、複本位、或は金本  
 位、銀本位、金銀兩本位と云ふ説がある、然るに日本では是迄

單本位であつた即ち國民と云ふものは男に限られた社會の有らゆるものは男が支配するものであると云ふ一つの本位説が行はれた又凡て男女の關係と云ふものは女子は只服從の義務と云ふ本位を守らせられた言換ふれば服從主義即ち國民と云ふものは單本位主義に今日まであつて居りました夫れで四千万の國民だと威張るけれ共、ナアに女子を除いて見ると二千万の國民になる斯云ふ有様であります其處で今度政府に於ては金本位—金單本位を採る事になりましたが私は國民の上に就ては兩本位説を取りたいと思ふ斯く申すと何だか私は生意氣な事を言ふやう

であります、實は私は能く知りませぬが随分男女同權と云ふ事或る社會に於ては有るけれども私の言ふのはさう云ふ意味ではないので、眞個富國強兵の實を擧げんとせば必ずや女子の智識を開發上進し女子の性格を高尙優美ならしめなければならぬと言ふのである。若し夫れ一家の主婦が家庭經濟の道に通ずると否どが家庭財政の利否の岐るゝ所であるとするれば一國の主婦悉く家庭經濟の術に暗き時は國家の不利申す迄もありませぬ。又一家の主婦が小兒教育の理に達すると否どは家庭教育の得失の分る所なりとすれば一國の主婦が盡く小兒保

育の法を知らざる時は、國家の損耗測り知る事の出来ない程である。商家の主婦が商業上の知識を以て夫の事業を輔佐すると、之に反して、錦繡綾羅を纏ふて煎茶彈琴を事とし、遊興歡樂無用の消費に財を散じ、良人の事業に休戚を感ぜざる事や、又は軍人の妻女が良人出陣の砌に痴情の涙を滳えて離別を惜しむと、或は潔く袂を別ちて、奉公義勇の精神を鼓吹するとは、其孰れか國家の富強に益あるか、孰れか國家の元氣に損あるかは、多辨を費すの必要はありませぬ。之を要しまするに、家庭經濟は國家經濟の基礎で、家庭教育は國民教育の根本である。而して家庭の風儀は、社會の風儀

の泉源であつて、家庭の元氣は即ち國民の元氣でありとすれば、女子教育の國家に必要な素より其所でありませう。殊に内地雜居となつた曉には、私交上に女子の技量を要する事恐らくは今日の意想外でありませう、私交上女子の地位の重要な事は、國際上に個人としての政治家の地位が、重大なるに彷彿して居る。是れ只二三の例證に過ぎませぬが、人生の各局部に於て、陰に陽に女子が國家の富強に及ばず、映響の莫大なるは今更言新しく陳ぶる必要はありませぬ、されば内に國力を養ひ、外に國光を發たんに、是非とも女子教育を盛大にせなければなりません。

斯様に静かに考へて見ると、實に女子大學の必要を感ずる  
 のであるが、今退いて何故に女子は國民から取除けられ、單  
 本位の勢力を有つて居つたかど申しますると、必竟男子は  
 強く獨り強いばかりでない、多少教育もあつて物を知つて  
 居る之に反して女子は弱い又教育もなかつたと云ふ爲め  
 に、女子の勢力と云ふものが非常に程度の低いもので、遂に  
 銀が金に壓せられて、單本位の有様となつたのである。是は  
 どうもいかぬ、何うしても、此國を強ふすると云ふには、非  
 女子の程度を高めて、復本位即ち男女を以て國民を組立て、  
 而して此夫婦の關係よりして、家庭の教育を爲すでも、けれ

ば逆でも優等なる國とすることは出来ぬと思ひます。  
 ソレ故に女子大學初めは實に大膽なる話と思つた、女子大  
 學と云ふものが世界に在るか、どうか私には分らん位で、實  
 は初めは冷淡に考へた處が徐かに考へて見たら、さうでは  
 ない、何うしても此女子の教育が進まんで、家庭教育―家  
 庭教育のお話は先刻から反覆お話があつたが、何うしても  
 男子より女子に重きを置かなければならん、遺傳の力も男  
 子より女子が一層強いです。  
 夫から今一つ感じを起したのは、小學校の普通教育は餘程  
 進んで来た、先刻お話になつた國々と比較して見ると、甚だ

ドウも歎息する譯であるが、併し女子の小學に入る數は余程増したから、是れは宜しい、併し小學以上の教育は、誠に指を屈する程しかない、女子の高等教育と云ふものは、殆んど無い位である、小學の教育を受けた女子は、年々數を増すが、幾歳で卒業するかと云ふと、十三四歳、十三四歳から婚姻する迄には、何うしても六七年間がある、其間をして居る、ソレは何うも先刻成瀬君が歎息をせらるゝ通りの風俗、實に恐るべき風俗に導かれて、さうして、一つの弊害は、早婚の弊、是れは實に怖しい、今日の有様であれば、段々日本の國民の体力は弱くなつて仕舞ふ、体力が弱くなると同時に精神

が弱くなつて來るに相違ない、是れでは何うも世界の強國と相對すると云ふことは、逆も出來ない、世界の最も文明なる最も強壯なる國民と相競ふと云ふ事に就ては、其原を養はなくてはならん、其源は何であると云へば、則ち女子の教育である。

ソレ故に私は女子大學初めは大膽の事と考へたが考へて見ると決してさうではない、併し是は中々困難な事業である、前途甚だ遠いことであるが、遣らんで往かん、又女子の教育に就ては、失敗もあらう、弊害もありませう、併し弊害があらば、其弊害を掃はなければならん、又失敗があらば、其失

敗に鑑みて成功の企をしなければならん。此に於て私は熱心に成瀬君の説に同意した。ソレ故私は教育の事には少しも経験もなければ學問も無いに拘らず、熱心に成瀬君の爲めに勞を取つて、出来る丈力を盡して此大學を成立せしめて將來の繁榮を望み、此大學の力を以て將來女子教育に及ぼす所の感化力を益々大にして我國の女子教育の程度を進歩發達せしめたい。其成功を此學校より起すことを望んで、力を盡す心得で賛成致した譯でありますから、若し諸君が御同感ならば、互に充分力を盡して此學校の事に盡力せられむことを希望致します。

一、**教育家は唯是れ一の事業家で有つて賛助員諸君は其資本家でありませす。**假令教育家にして志望に滿ち精神に溢れ、赤誠に富みまするも、教育事業の資本家たる諸君の助力微りせば、恰かも是れ糧食なくして戰陣に臨むと一般で、如何なる勇將猛卒も、能く其功を奏する事ができざる如く、教育事業も擧がらぬといふことは、燎然火を視る様であります。

今夫れ女子教育の國家に必要なる一日本女子大學校設立の日本女子教育に必要なる、既に前段述べた通りであれば、諸君の之を賛助せらるゝの必要は申す迄もなく、其日本女



女子大學校の設立せらるると否とは、眞とに賛助員諸君の意向如何に存すと云つて宜しいのでありますまいか。  
今若し不幸にして、日本女子大學校が設立せらるゝ運に至らざる様ある事あらば、當に遺憾なるのみならず、亦實に諸君が平日業務に従事せらるゝ素志目的に、戻るものと謂はねばなりません。日本の金權を掌握する所の大都名邑の紳士豪商諸君が、賛助の意を表したる一箇の女子大學校が、設立を完ふする事が出来ぬとは、予の信ずるとの出来ぬ所でありませぬ。  
諸君諸君が、日本女子大學校を賛助せらるゝは、一個の主唱

者一團の發起人に、助力を與ふるのでは、ありません。實に國家の生命に、食物を供給し、國を富まし、兵を強ふし、以て國家をして健全なる發達を遂げしむるものであつて、諸君が平常の素志目的を貫くの一端に、外ないと思ひます。(拍手大喝采)



## 日本女子大學校設立に就て

侯爵 蜂須賀茂韶

諸君今日は成瀬仁藏君よりの御招きに依つて私も此席に列りました事でござりますが、然るに何か一言述べられる様にと云ふ事でござりまして、拙劣を顧す聊か所感を述べやうと存じます。

既に近衛公爵なり、成瀬君なり、又只今は大隈伯爵より纒々の御演説もありまして、最早大體の主意は別段茲に申述べられる程の事もありませんが、實に此の成瀬君の企てらる事は、最も時機に投し、且つ必要なる事と云ふことは深く賛成を

致すのであります。

女子の教育と云ふ事は段々諸君も述べられました通り、實に今日までは怠て居る姿でありまして、今日はモウ後れて居る位でありますが、尙ほ夫れでも一日も速かに女子の教育と云ふ事に就て着手をせねばならぬ時機と存じますので、それで諸君も述べられました通り此の家庭の教育の本源と云ふものは女子の教育の如何に重大なる關係を有つて居ると云ふ事は申すまでもない事でありまして、慈母の膝下に於て、一片の教訓を受けたと云ふ說話が、遂に五十年後の老ひたる後までも、其の影響を持つと云ふ事になりま

すのでありますから、實に此の女子の教育と云ふ事は、一日も忽かせにすべからざるものであらうと思ひます。何分今日までの我國の女子教育の方針と云ふものは甚だ遺憾な事でありませうけれども、或は歐米の眞似をするとか云ふ様なことで聊か歐化的に傾き過ぎたとか云ふ次第もありました又或は古風的に傾き過ぎたとか云ふ時もありました。或は實用的となり、再變三變度々に變りまして其の適從する所を知らぬと云ふ様な有様にあつて居つたと云ふ事が即ち此の女子教育の方針をして迷はしめたと云ふものであらうかと思ひます。

我國の女子教育の狀態を見ますのに、其の普通教育の普及の程度と云ふものは、まだ學齡女子の半數にも至つて居らぬのであります。況してや中等教育と云ふことになつては、中々及びもつかぬと云ふ有様であるのであります。此の如き有様にて過ぎ行くと云ふ事は實に慨嘆に堪へぬ譯であります。且つ只今申す通り種々の方針を執つたと云ふ所から大に其の方針の變動を起し迷ふてあると云ふ有様であらうと思ふ。

成瀬仁藏君は此の女子教育と云ふ事に最も熱心に従事せらるゝこと十餘年にも相成ると云ふことであります。凡て

是れまでの我國の女子教育の方針に就ての短所と云ふものも明かに承知せられて居り、實験に富みて居る事であらねばならず、依りて能く將來の目的を立てらるゝ事は誤りはないと思ひます。殊に米國へも參られて種々の學校を觀察せられ、又大家に就て意見を聞て歸朝せられた後は、其の實験と學理に照らして、特種の教育の主義を唱導せらるゝと云ふ事も承つて居ります。此度大學校を設立しやうと云ふ事に就ても、必ず其の成功を遂げらるゝと云ふことは信じて疑はぬ事でございます。

去り乍ら唯々相愛を申す様な事になるかも知れませぬが、

兎角此れまでの日本の一の事業を企ると云ふ事に就ても、何分始めは大に計畫の當を得、望のある事柄と云ふ事で、廣く賛成する者があつても、此の終りを見ると云ふ事に就ては、毎々程宜き結果を見ぬと云ふ事は、是れまで経験する處である故に、今度の事柄に於ても、實に此事に従事せらるゝ人は、始あつて終ないと云ふ事の無い様に、徐々と歩を進めて、大に其の目的の域までに達すると云ふ事を精神として従事せねばならぬ事と思ひます。

只今大隈伯も申さるゝ如く、随分此の女子大學校を起す杯と云ふ事は、一寸承れば甚だ大膽に過ぎた突飛な事で無か

らうかど云ふ感<sup>かん</sup>じを起<sup>おこ</sup>す併<sup>ひか</sup>し乍<sup>さ</sup>ら其<sup>その</sup>の目的<sup>もくひく</sup>と云ふ所<sup>ところ</sup>は其<sup>その</sup>の所<sup>ところ</sup>まで及<sup>およ</sup>ぼす目的<sup>もくひく</sup>でなければならぬと云ふ事は飽<sup>あ</sup>まで成<sup>なる</sup>瀬<sup>せ</sup>君<sup>くん</sup>の御<sup>ご</sup>主意<sup>しゆい</sup>を賛<sup>さん</sup>成<sup>せい</sup>致<sup>いた</sup>しますけれども其<sup>その</sup>處<sup>ところ</sup>に達<sup>たつ</sup>するまでの道<sup>みち</sup>行<sup>ゆ</sup>きは實<sup>じつ</sup>に鄭<sup>てい</sup>重<sup>じゆう</sup>に順<sup>じゆん</sup>序<sup>じゆ</sup>を履<sup>ふ</sup>んで幼<sup>ちゆう</sup>稚<sup>ち</sup>園<sup>えん</sup>なり小<sup>しやう</sup>學<sup>がく</sup>校<sup>がう</sup>なり其<sup>その</sup>の土<sup>ど</sup>臺<sup>たい</sup>が定<sup>さだ</sup>まつた後<sup>のち</sup>に遂<sup>つひ</sup>に中<sup>ちゆう</sup>學<sup>がく</sup>なり大<sup>だい</sup>學<sup>がく</sup>を起<sup>おこ</sup>すと云ふに達<sup>たつ</sup>する様<sup>よう</sup>にせねば唯<sup>ただ</sup>々<sup>々</sup>到<sup>たう</sup>達<sup>たう</sup>を急<sup>いそ</sup>ぐ様<sup>よう</sup>では或<sup>ある</sup>は後<sup>のち</sup>と戻<sup>もど</sup>りはせぬかと思<sup>おも</sup>ふ是<sup>こゝ</sup>は杞<sup>き</sup>憂<sup>いゆう</sup>であらうと思<sup>おも</sup>ひますが是<sup>こゝ</sup>れまで日<sup>に</sup>本<sup>ぽん</sup>で一<sup>いつ</sup>の企<sup>くわ</sup>てをすると云ふに就<sup>つひ</sup>てさういふ様<sup>よう</sup>な類<sup>るい</sup>の事<sup>こと</sup>が多<sup>おほ</sup>くあるから其<sup>その</sup>の順<sup>じゆん</sup>序<sup>じゆ</sup>を經<sup>へ</sup>て目的<sup>もくひく</sup>の域<sup>よき</sup>に達<sup>たつ</sup>すると云ふ事<sup>こと</sup>を必要<sup>ひつぎ</sup>と感<sup>かん</sup>じましたから其<sup>その</sup>事<sup>こと</sup>を諸<sup>しよ</sup>君<sup>くん</sup>の前<sup>まえ</sup>に一<sup>いち</sup>應<sup>おう</sup>述<sup>じゆつ</sup>

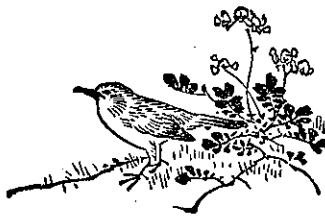
べて置<sup>お</sup>くのであります其<sup>その</sup>上<sup>うえ</sup>此<sup>こゝ</sup>の建<sup>けん</sup>築<sup>ちゆう</sup>を始<sup>はじめ</sup>として万<sup>ばん</sup>般<sup>ぱん</sup>の計<sup>けい</sup>畫<sup>かく</sup>をせらるゝ事<sup>こと</sup>も何<sup>なに</sup>分<sup>ぶん</sup>順<sup>じゆん</sup>序<sup>じゆ</sup>的<sup>てき</sup>に運<sup>はこ</sup>んで參<sup>まゐ</sup>らねば唯<sup>ただ</sup>々<sup>々</sup>大<sup>だい</sup>なる建<sup>けん</sup>築<sup>ちゆう</sup>が出來<sup>でき</sup>て是<sup>こゝ</sup>れに其<sup>その</sup>れだけの教<sup>けう</sup>員<sup>いん</sup>なり生<sup>せい</sup>徒<sup>と</sup>なりが具<sup>そな</sup>はらぬと云ふ様<sup>よう</sup>な不<sup>ふ</sup>都<sup>と</sup>合<sup>がふ</sup>を見<sup>み</sup>る様<sup>よう</sup>な事<sup>こと</sup>があつては甚<sup>はな</sup>だ遺<sup>い</sup>憾<sup>かん</sup>な事<sup>こと</sup>と思<sup>おも</sup>ひますから一<sup>いち</sup>寸<sup>すん</sup>其<sup>その</sup>邊<sup>へん</sup>は成<sup>なる</sup>瀬<sup>せ</sup>君<sup>くん</sup>を始<sup>はじめ</sup>として是<sup>こゝ</sup>れより從<sup>じゆ</sup>事<sup>じ</sup>せらるゝ諸<sup>しよ</sup>君<sup>くん</sup>に於<sup>お</sup>て御<sup>ご</sup>拔<sup>は</sup>かりも無<sup>な</sup>い事<sup>こと</sup>でありますけれども深<sup>ふか</sup>く其<sup>その</sup>邊<sup>へん</sup>を憂<sup>うれ</sup>へて一<sup>いち</sup>言<sup>ごん</sup>述<sup>じゆつ</sup>べるわけではありませぬ。

且<sup>か</sup>つ此<sup>こゝ</sup>の事<sup>じ</sup>業<sup>ぎやう</sup>に於<sup>お</sup>ても私<sup>わたくし</sup>は全<sup>まった</sup>く一<sup>いつ</sup>個<sup>こ</sup>人<sup>にん</sup>として賛<sup>さん</sup>成<sup>せい</sup>を致<sup>いた</sup>して居<sup>ゐ</sup>るのであります丁<sup>ちやう</sup>度<sup>ど</sup>文<sup>ぶん</sup>部<sup>ぶ</sup>の當<sup>たう</sup>局<sup>きよく</sup>に居<sup>ゐ</sup>ります故<sup>ゆゑ</sup>に自<sup>じ</sup>

然に其の職掌に關して成瀬君より色々お話を承る様な事  
であり將來は此の學校は何處までも官の監督を受けたい  
と云ふ様な御希望もあると云ふ事は度々承つて居る様  
な次第であり是は私が當局に居る居らぬに關つた譯であ  
りませぬが文部省として飽きでも此の企てと云ふものに  
は賛同を致して及ぶだけの保護監督は與ふる様に致した  
いものと云ふ事は切望致して成瀬君の其の望みを容れて  
居る様な次第であります。

今日は別段に此事に就て最早長々辯しませぬでも先刻よ  
り段々諸君の御演説もあつたことで時間を費して消聽を

汚す程の事もありませぬに依つて尙ほ此の學校の滯りあ  
く成りつ致して御同感の諸君の御助力を得て長く盛大に我  
國の女子の教育の模範ともなる事を希望致して置ます。拍  
手大喝采。



## 女子教育談

江原素六

諸君私は諸君の前に立つて演説などを致すは甚だ不謙遜な事でござりますから断る積りでござりましたが頻りに成瀬君からの御依頼で不謙遜な事でござりますが一言清聴を汚します。

私は御維新以來男子の中等教育には力を盡くし、又心を用ひて居つたに相違ないが女子の教育と云ふ事は必要な事と知つて居りますけれども、それはとにかくにドウしたら宜からう、斯うしたら宜からうと云ふ事の考案を凝らした事もあ

りませぬ併し乍ら男子の教育と女子の教育の比較は多少杞憂を抱ひて居りました、若し男子ばかり智識が進んで之に伴ふ女子の智識が進まねば或は社會が片輪になりはせぬかど云ふ考へを有つて居りました、下の様に男子が進歩しても、其れに附添ふ女子の進歩がなければ、此の社會は善良なる結果を得ぬであらうと云ふ杞憂を抱きて居りました。

私は曾て鶏を澤山飼つて算盤で勘定すれば玉子が取れて宜さそうであるから箱へ入れて置くのと、飼料が不足もせぬに外に出て隣の畑を荒します種々様々の工夫をするも

ドウしても脱逃する鶏の脱逃は黄金の力ではいかぬ、其れから私は餘程智慧を出した積りで鶏の羽を切りました、けれども短い羽で又飛出す、其ころ鳥屋が来て羽を切ると決して出ぬ、其れは鳥屋は片方の羽を切る、其處で一羽も飛ばぬ、其れと同じ一方の男の羽が大きく、一方が小さいと不釣合ゆへ飛ぶに宜しからぬ、女に學問は要るまいと思つたが、日本が西洋各國と肩を並ぶには男女教育の釣合はドウかと思つて居る處に成瀬君が御出て、女子大學を立てると云ふことで、實は膽を潰して、大學と云ふ様な事は困る、けれども成るほど女の智識も男と同じ位に兩羽揃はねば飛べな

いから、兎に角女子教育と云ふ事には幾分か心配をして居つたから、成瀬君の後に附いて多少力を盡くしませうと言ひました。

殊に日本が外國人と交際するに當つて、或は外交官の細君、或は陸海軍の將校方の細君と云ふ者は、實は此れから海外人と極く親しく交際をせねばならぬ、其時に夫は海陸軍の學科を讀じ、西洋人に負けぬ智識があつても、其れに附添ふ婦人が彼の婦人より低い、殘念な事である、殘念なのみならず、一國の品位として憂へねばならぬ。

今日日本の政治社會には色々争ひはある様であるけれど



も此の争ひは個人區々たる感情の争ひで西洋各國反對黨  
 お互の争ひは眞劍勝負の争ひである彼のビーコンスフェルド  
 が非常の艱難を凌ぎ總理大臣となつて恰も英國國會の開  
 設の演説の時朝早く出て勿論細君も共に行つてビーコン  
 スフェルドは議場に出で細君は他の處に居て事済んで家に  
 歸ると細君が俄かに絶息した醫者が見れば手が腫れて居  
 る其れは朝夫と共に出る時に馬車の戸でいたく手を撃つ  
 た其れを直下り夫に言はなかつたなせといふにそれは阿  
 那方が斯ういふ風に演説をしやう、アーいふ風に演説をし  
 やうと云ふ演説の順序があるう、若し妾が指を痛めた爲め

に妾をいたはる爲め胸中演説の順序を狂はす様な事があ  
 つてはならぬ又那方か妾の事をドウであらうと云ふて一  
 點心が散る様な事があれば演説の成功を害する様な事が  
 ないかと思ひ、那方の事ばかり思つて自分の痛さは忘れて  
 居る位であると云つて始めて、始めて其事が分つたといひます。其  
 れ位に細君までも力を盡くして勝利を得たと云ふごとき  
 最も勢力の要る事である。

今日の様な政黨相互の争ひのごときは小兒の戯れと言  
 つても宜い然らば大政治家に伴ふ細君は其れだけの智識  
 を具ふる所が無ければならぬと思ふナボレラン第一世が

夫人ジヨセヒンに向ひて我は國を取るが汝は人を取ると云つた國を取られた者はナポレオンの肉を啖はふと思つてもジヨセーフヘンが後から目も口ほどの物を言ふと思つてふ様な愛嬌を以てする故に其者も遂にナポレオンを助け様になる。今日戦勝の餘榮を荷ふて是れから外交上に當る人の細君は是れに適當する所の要素を具へねばならぬ。故に私共此の女子大學校の事は成瀬君より寢耳に水に襲はれましたが、今日は一日も怠るべからざる事と思つて力を盡くさねばならぬ諸君にも力を添へて御貰ひ申さねばならぬと思ふ。

今日まで女學校の有様に就ては失敗があるとか或は欠點があるとか云ふ事を申しましたが如何さま失敗もあり不都合な事もあるのである。日本の女學校は一方はミッションスクールである。則ち宗教上の力に依つて日本の婦人に教育を授けたい徳育を授けたいと言つてやつて來たものが餘分である。其他は府縣の師範學校の女子部と東京其他にある私立或は官立女學校のみである。ミッションスクールは氣の毒はど力を盡くし氣の毒はど金を遣ふて居るけれども、國が違ひ風俗が違ふが爲めに日本の女子を教へ品行を矯正するとか艱難を忍ばねばならぬとか云ふ様な事

や着物の穢い爲めに友達の病氣見舞に行かれぬと云ふ様な卑屈の事などはなく、自分の財産に安んずるといふ如き思想を興へたけれども一方には種々の欠點がある日常お互の言葉などは何とも言はれぬ事を言つて居る私の懇意な者が女學校の卒業生を貰ふて良い細君でござりましたが、或る時其の夫が遠國から歸つて来て新橋から先きに荷物を車に載せて寄越して、自分は朋友の家へ二三軒寄りねばならぬことがあつて、餘程後れて歸つた其の細君は夫に向ひ荷物は先きに來らしたが、那方は何時までも來なかつたと言つたと云ふことがある。荷物に來らしたと言つて、其

の夫に來あかつたと言つたと云ふことがある。それでミツシヨンスクールでは稍もすると優美と云ふことが薄くなるやうなる弊がある、其れに反對する日本流の女學校と云ふものはドンなであると言へば極く舊弊である。誠に舊弊で子供が鹽梅が悪いと云へば醫者の處へ人を遣つて、其れと共に入桶様へ行つて御符を貰ふて來ると云ふ様なことで、是れでは開明の世に適する譯でない。私共師範學校の女子部を見れば或は二割或は一割半位夫を持つた者が居る。嫁に遣つたけれども折合が悪くて出て來て、直ぐに又遣れぬからと云つて師範學校に遣入つて居る者が

ある忠臣は二君に仕へず貞婦は兩夫に見えずと云ふ貞女の道を教ふる所の師範學校に夫を持つて出て來た者が何處の學校にも居るさういふ風を譯で、ミツシヨンスクールに反對する學校にも欠點が多い、ドウか此の欠點を補ふ道

があれは宜いと思つて居りました。然るに今日成瀬君は西洋流でもなく日本流でもなく、今日の文明に適し、今日の日本に能く當て欲まる女學校を立つると云ふ事で、即ち模範的の女學校が出来て是れまで在る所の舊弊の學校の方針を改め、又日本の事情を知らぬで椽の下の力持をするミツシヨンスクールも此の學校を模範

にして大に改良する事が出来れば、日本の進歩を助ける事は實に大なるものと思ふのです故に私は女子大學校と云ふ事を言はれて實は膽を潰したけれども、どうか力を盡して共にやりたいと云ふ決心を起したのであります。

終りに臨んで一言せんとするとは私共國家の爲に大に慶さねばならぬ事がある。即ち國家の事は決して有形の物質的の働きを以て進歩するにあらず、即ち無形的の事業と共に進まねば決して進歩せぬ、日本現時の有様を見れば政体は立憲代議政体である郵便電信海陸軍の事より悉く能く整頓しましてござります、けれども之に伴ふ裏面の働きが

なければ完全なる進歩を得る事は出来ぬと思ひました。先きに板垣伯爵が内務大臣の時に監獄改良の事を頻りに言はれたさうでござります。其れは結構な事と誰も言ひませんが、如何に立派に監獄の構造をなし囚徒の取扱を能くしても其の出獄人を保護する者がなければならぬ、又社會のあしき教育に支配せられ惡き寄席惡き小説の爲めに感情の強き青年を再び罪人にせぬ爲めに感化院を建て善に導くと云ふ政治以外の働きをするものがなければ、唯々監獄改良ばかりで罪人が減る事はない、前の大審院長三好退藏君は奮つて感化院設立に盡瘁せられ又此頭原胤昌と云ふ

人が微々たる力を以て英照皇太后の事に就て特典を以て許されたる罪人の行き處なくして棄て、置けば再び社會に毒を流すと云ふ者を集めて考へて微々たる力を願みず殆んど百餘人の出獄人を自分の家に置いて或は誡諭の言葉と與へ或は彼方此方の職業の心配をしてやつて居る又衆議院議員に於ても大竹貫一君が恤救法と云ふ案を出されましてござります。元來社會で尤も柔順なるもの慣むべきものは貧民である貧民は柔和なものはあい、ストライキな事を起す事があるが其は皆余他より煽動されるので詰まり自分の働かぬだけの小數者の犠牲となり自分の



結果を見たいのであります。(拍手大喝采)

爲には益する所なく損になるのみである貧民は益可愛も  
のはない大竹貫一君はさういふ所に向つて精神を注ぎて  
居らるゝ。  
今日女子大學の事に就て滿胸の感謝を以て謝せねばなら  
ぬことは蜂須賀侯爵、大隈伯爵、近衛公爵等が態々一人成  
瀬君の爲めに態々御出張になり、此事に就て賛同せらるゝ  
は日本の前途の爲めに喜ばしき兆候として喜ぶのであり  
ます。私共は西洋各國の大政治家の細君に對して恥ぢない  
技量あり淑徳を具へたる婦人は、此の學校より出る様にし  
て男子のみならず、婦人も海外各國に一步も譲らぬと云ふ

## 女子教育談

島田三郎

私が此の席に登りまして今日の會に一言述べますに至りました來歴を一言申さねばありませぬ昨年成瀬君が突然御出でになりまして女子大學校を設立するに就て賛成せよと云ふ事で其の主意は此の著書の中に記してあるから一覽せよと云ふことで成瀬君の久しく女子教育に力を入れて居られると云ふ事は承知して居り大坂で梅花女學校を預つて女子教育に従事して居らるゝと云ふ事は聞て居るが成瀬君の如何なる人と云ふ事を知らぬ故に如何に

挨拶して宜きかと躊躇致して考へて挨拶しませうと申しまして確と申さぬでござりましたが平生交つて懇意にして居る或る人の紹介に依りて成瀬君の經歷を承りました其れは松村介石と云ふ人で新潟縣で教育に従事して居られたとがあり狹介正直極めて信ずるに足る人で成瀬君の親友であります成瀬君は女子教育の爲めに身を捧げて居らるゝと云ふ事を松村君から聞て是れまで成瀬君の突然御出でになつて頻りにお話になつた事は事實信ずるに足る事と思ひました。私の知る所で女子教育に身を捧げる人が二人あります、一

人は嚴本善治君一人は昨年松村介石君の紹介に依りて知りたる成瀬君である實に女子教育の困難と云ふ事を期して盡力せらるゝと云ふことで私も及ぶだけ力を盡くさうと云ふことになりました私も此の業の困難と云ふ事は信じます、只今申上げた嚴本君も十數年女子教育の爲めに身を致して非常の困難を経て他の人ならば恐らくは志を變へたかと思ふ位で、私も實際上其事情を知り、其の事態を實見致して、其れより大なる女子大學校を興すは更に一層の難事で、第一世の人に其の必要を信せしめねばならぬ、又反對論に辯解を興へねばならず、基礎を置く前に種々の困難

を排除せねばならぬ故に前途困難のあらうと云ふ事を察し、

我國の進歩著しきものと云ひますが、萬事外國に摸して居る即ち開化した國の事を摸範に取りて我國に興す次第でござりますすが、其の摸範にせらるゝ歐米にも女子の大學教育は成瀬君の述べらるゝが如く僅か二三十年前には大なる反對がありました、今日獨立したる女子大學と云ふものは、英吉利にはありませぬ、教育には久しき歴史を有し、殊に女子教育を貴ぶ英國すら、ケンブリッジ大學の附屬の學校として二の女子部がある位である故に我國に於て大學の



名を冒して之に副ふだけの事をするは難き事で製鐵所を起すよりも幾層倍難いと思ふ然るに成瀬君が奮然此困難なる事業を企て世の中に打出したる勇氣は感ずるに堪へたる事で私が始めて御目にかゝつた時に直ちに私に賛成せよと云ふ事で卒然たる事でも成瀬君の此の卒然たる事こそ其の勇氣を證するに足る大隈伯に紹介を乞ひたいと云ふ事で大隈伯は教育に年來意を傾けて居らるゝ爲りに適當なる要求と思ひまして他に聞き得たる事を申して大隈伯に紹介致しました。

成瀬君が東京に出て右左前後を顧みず進まれた事でござ

ります、賛成する人は此の勇氣を賞すると共に成瀬君等が此の困難に當り蹉躓せぬ注意を與ふるが必要と思ふ此の成功の六ヶしいと云ふ事は始めより期する事で、其れに關はらず、打出でられたる以上は、此事の成就して社會に幸福を與へんとするには、其の進み方は徐々として進むが宜いと思ひます。

従來の女子教育の有様を見れば、江原君の言はるゝ如く、我國に成立つて居るは女子師範學校并に外國教師が我國で高等女學校を建つるものが重もで、其他華族女學校其他東京に二三あるのみで、大學に進む豫備校は如何あるうと思

ふ定めて此の計畫に就ては豫備校も大學に添ふて立つて、是れより進んで本科に入る順序もつかうが豫備も我國で始めての事で故に大學の名はあるにせよ科程の高さを望まぬ順序が整備して社會の有様に能く應じたる教育を望むものである。第二には技藝の場所たらずして氣象精神の場所たる事を希望致して居る我國で高等教育を受けて更に米國に留學したる女學生徒の報告を讀みますと、我國で教ふる所の學科を履みて外國に出れば決して其の學科は高さを覺えぬと云ふ事を云て居る。數學であれ其他であれ、海外諸國の學科は高さよりは精熟を望んで居ると思ふ。高

さより精熟を必要とする事の粗立てあると思ふ。前に申しましたケンブリッヂの大學校に附屬した一の女學校を訪問した時に數科書なり教へて居る實際を見れば、我國の女子の敢て高しとせざるものを教へて居る此の學校は英國女子の最高等の學校であつて大學校に准すると云ふ學校である。學科は多からずして又高からずして適切にして又熱する様に立てゝある英國の保守的の性質を現はして居ると云ふよりは女子教育に取りて肯綮を得て居る教育法であらうと思ふ。新たに起す我國の學校にも此の如き模範を取りたいと思ひます。

成瀬君其他に私の持論を一言申します、女子教育の大切なる事は先輩が述べられましたから其の前途種々の困難の有る事と、技藝の場所たらずして精神の場所となり其の學科は高からず多からずして最も整頓して社會に適切な學科を教へられん事を望む。

我國に於ては社會の原素に於て女は無い様であります、決してそうでない國の氣風は實は女の氣風に準ずるもので國の好みに依りて兎角さうであつたと思ひます。亞米利加が活潑亦有様があるに云ふは、社會の活潑あるにあらざ、女が活潑である故に社會が活潑である、英吉利は保守的の

國である故に女が堅固で保守的であるにあらずして女の性質が保守的である、堅固である爲めに國も堅固であり保守的である、是は私一個人の説にあらす他人も斯ういふ説があつて私が其れに同意するのである故に女の教育が正しく上進すれば國も正しく進歩するに相違ない、家風は女の氣象に依りて定まると同じ事に、家族の集合体が國を成す事であれば、其れと同じ道理を以て社會の氣風、國の氣風は今日人口の半ばを組んである女の氣風に依りて定まり、女の好みに依りて定まると云ふは至當である、然らば女の教育の高まるは國の性質の高まるものである、進歩を爲す

ものである。

成瀬君が高等學校を立てやうとし、社會の人が翕然之に應ずるは我國が高等女學校の氣運に應ずる爲めで、此の氣運を應用して立派な學校を立てられん事を希望する爲め、女子教育の必要なる事は先輩に譲り、私の此事に對する愚見を諸君の前に陳述致します。(拍手大喝采)



### 女子教育振起策

本篇は帝國教育會に於て演説したる事項の筆記に係るものとす

#### 成瀬仁藏演述

今日は、教育に熱心なる諸君の前で、不肖の私が聊か卑見を述べる機會を得ましたのは、誠に光榮と存する處でございます。いまして、勿論學理學說を講ずる積りで、あく唯私の所懐の一端を諸君に御訴へ申すのでございませうから、往々卑近に渉るかも知れませぬ、其邊は前以て御了承を御願ひ置させ

す。  
 私は數年前に亞米利加に遊びましたが、ぼすどんへ着する  
 や間なく某紳士の饗應に招かれたことがある、其席上で話  
 の序に私は一の問を出したのである、即ち貴國では青年と  
 云へば、何れ位の歳恰好の者を云ひますか」と尋ねた、然るに  
 其答は二十五歳から四十五歳までと云ふのであつたので  
 ございました。次に私が饗筵に招かれた時に其席上の慷慨談  
 の中に私はもう少し年齢が若つたら云々と云ふ言葉を使  
 つた處が一座大に笑つた、其譯は二十五歳から四十五歳ま  
 でを青年と云ふ、亞米利加人の眼には私位の年輩の者は「ボ

ーイ」boyと思つて居る、米人は斯う云ふ氣風でありますか  
 ら、日本とは色々違つた現象を度々見ます、私はぼすどんか  
 ら極く近き處のあんどばあいと云ふたうん」の口々に往きま  
 して、或家に泊つて居りました、處が間も無く其隣家に婚禮  
 があつたのでございます、其花嫁さんは通常の如くに二十  
 六位であるかといふと廿六を逆に讀んだので、即ち六十二  
 歳で初めて婚禮をするのでありました、事實本當でござい  
 ます、又婢さんも七十以上の人でありました、夫から私は此  
 家の人と心安くなつて度々馳走などになりました、六十以  
 上で擧めて婚禮すると云ふことは甚だ不思議に思はれた、

夫から又もう一つの例は男子の方は四十歳位で嫁さんは三十五歳で結婚しました、夫から三年ばかり経ちまして私はずつと中央市俄高の方に旅行をして、其近隣の「タウン」に往つた時に前に申しました友人の親の處に一寸尋ねた、是は其友人の父親と、さうして其妻の母親とが婚禮をしたので、そでありまして、自分等の小供より後とに婚禮をしたので、その年齢は双方六十歳以上であつたのであります、學生間に年々随分日本では老人中に數へられ隠居でもしそつた年輩の者が居り、升私が或大學に這入つて見ますと、其處には四十五歳の學生が居りました、此の學生は二十年間新聞

記者であつた人で、妻子を携へて來て居りました、そふして其娘は己に十八歳で、父と同一學校に勉強して居りました。又或女子大學に參觀に行きました處が、其時恰五十五歳の老婦が入學したと云つて居りました。勿論斯云ふ例は澤山だとは申しませんが、三十以上の學生は随分澤山居ります。日本では斯う云ふ例は先づ皆無と云つても宜しかるふと思ひます、私は日本人も米人の様に七十前後になつても婚姻すべしなど、又は妻子を携へても、老婆になつても勉強せよとは穴勝申ませぬが、兎に角日本人も米人の様に若い氣を何時迄も持つて行きたいものだと思つて居ります。

扱て私共が皆な能く知つて居つて別に耳新しいこともあ  
りませぬが、吾が國少壯男子の好んで口吟する處の名句に  
「男子立志出鄉關、學若不成死不還」と云ふ句が御座います、  
又「自喜豪氣猶未摧、每經一難一倍來」といふ句は年を  
取ても困難に出逢ふても豪氣は益々殖えるといふのであ  
ります。是等の句は宜くも偉大の人物の氣象を描出して居  
るものと思ひます。此精神、此活氣、此元氣を缺きました時  
は、齡が幾ら若くとも幾ら身体が丈夫な人間でありまして  
も、其はもう役に立たない、老朽なるもう望を屬するに足ら  
ない處の人であらうと思ふのであります。偉大な人物の資

格に種々ありませうが、兎にも角にも如何ある境遇に立ち  
ましても、何等の境界に際會致しましたも、何等の困難に出  
逢ひましたも、何う云ふ強敵に攻撃されましたも、此精神此  
氣象、此元氣を持續けて、何時々迄も進み進んで常に偉大  
にならう、偉大にならぬければならないと云ふ氣象を以て  
居る者が取りも直さず偉大な人物であらうと思ふ。夫で古  
今俊傑と呼ばれ、或は君子と云はれた人の事蹟を考へて見  
ますと、其頭の髪は眞白になり、頬骨は高く秀で、身体が自  
由に利かないといふ歳になりましても、其精神は活氣に満  
ち満ちて、奮勵勇進して往く、何時迄も向ふに往くと云ふ氣

象のあるものでございませう、斯う云ふ者は仙人ども云ふべきもので、恒に緑髪童顔の有様でございませう。併し是に反し、齡は縦令青葉の如く若くても、早やその精神は活氣あく恰もあの枯葉の萎縮して、生命もなく光澤もないと一般でございませう。夫で斯の如く年齢は若くとも其精神は既に業に萎縮して仕舞つた活氣のない年若い老人青年は其生涯に於て、決して見るべき程の功績の擧らぬと云ふことは、牙り切つた話だらうと思ふ、是は一個人に就て眞理であるのみでございませぬ、亦た國民の上にも照しても同じく眞理であらうと考へられます。

然らば我日本國民は少壯有爲の日本國民でございませうか、將た老成を氣取つて居る年若い老人國民でありませうか、之は今日我々國民たる者の考へねばならぬ處の問題であらうと思ひます。之を歴史に徴し事蹟に照しますと、我大和民族が呱呱の聲を敷島の大和島根に揚げましてから、爾來實に二千五百有余年の長い歲月を過ぎ去つて居ります、決して若い國民とは言はれぬ併しながら、我日本國民と云ふ者が、世界列國の間に立つて獨立自治の体面を以て待遇さるゝ様に成つたのは、つい明治二十七八年役後でございまして、其發達上に於きましては、まだ若い國民であら



うと思ふ此二千五百年と云ふ山鳥の尾のやうに長い月日は此日本國民が一大國民とならんとする豫備に過ぎないであらうと思ふのでござります。夫で今や我日本國民は少壯期に達したばかりの國民であるから遠大の志望を抱き、元氣に滿ちて活氣に富むで是から進まなければならぬ、是から志を立て、往かなければならぬと云ふ氣象を大に抱いて居らなければならぬと思ひますが、併し之は一の疑問であらうと思ひます、即ち我日本國民は果して然るや、果して然るや是が疑問であります。若も万が一にも不幸にしまして、彼國民的識見もなく、國民の統一の必要なることを感

じない、無教育極まる支那人に勝つた位の些々たる事で嬉しがり、歐米の制度文物を輸入消化した位な幼稚な事柄を以て、やれ文明だとか開化の國民だとか云つて鼻を惹いて、進み進むで止まないと思ふ氣象を鈍らすやふなことが、今日あつては、此日本國民も岌々乎として亦た危いかなではありませぬか。

諸君我日本國民は遠大の志望を抱き活氣に滿ち滿ちて居るべき筈の此日本國民をして此後幾萬年を経るとも、希望の後に希望を増し何時までも進歩發達して偉大なる國民になりたいたと云ふ精神を持たせたいと云ふことを御互に

希望するは當然であるうと思ひます何うすれば我國民は偉大に發達するかと云ふに前に述べました處の精神が無い以上は決して大きくならないのであります此元氣此精神が何時も國民の心中に満ち満ちて居らぬければ決して國民は偉大にならない。

私は此處に偉大の國民と云ふ字句を使つてさうして富強の國民と云ふ言葉を使ひませぬのは此は少し思ふところがあるのでございます富強の國民と申します時には物質的方面に傾いて居るところの國民の發達を表はす言葉でございます偉大の國民と申しますれば此物質的發達に加

ふるに精神的發達を以てして居りますからして一方に偏しない完全ある發達の國民の發達を表はします言葉であると思ひますから私は故意と偉大の國民と云ふ言葉を使ひました固より私は兵が強くなり國が富むやうになるのを欲しないじやない其必要を認めぬのではないのでございませ今日軍艦を殖し兵力を進めなければ決して我國の体面を維持して往かれないと云ふことは誰にも分つて居る咄で兵力を進めやうとするには益々富の力を借りなければ出來ないと云ふことは分り切つた咄である併し乍ら此富強と云ひ又物質的の發達といふものは精神的發達に

基礎を置いて、兩々相伴ふて進歩しなければ決して健全強固

の發達を見ることは出来まいと思ふのであります。

然らば即ち日本國民を少壯にし、國の精神を若くすることが、國民を偉大にすることになるかと云ふに、是は固より申すまでもないことで、此日本國民は老成を氣取つて小成に安せず、何時も少壯の若い氣になつて、大志を抱いて、活潑潑地に活動して進歩發達して往くならば、偉大になるまいと欲しても出来ませぬ、固より前に申した如く、此國民を若くすると云ふことは、年齢を若くすると云ふ譯ではない、年齢は幾年取つても構はない、唯國民が理想を有ち抱負を抱

き、大志を立て、進み進んで目的に向つて行くならば、其が即ち少壯にあると云ふ譯であらうと思ふのであります、而して此國民の國家的感念から出たる高尚の志、及遠大の志、想を湧出せしむる原動力を作り出して來るところの源泉は何であるかと申しますならば、是は申すまでもない、教育である、教育と云ふものは、一方には國民に理想を抱かしめ、大志を樹立せしめ、又一方には其大志を成就せしむるものであります。

然るに教育と申しますと、直ぐ様誰でも男子教育のことより考へないと云ふのは、世の通弊であらうと思ふ、併し女子

教育と云ふものは、此教育の根源である、基礎でござります。勿論教育と云ふものは家庭教育の本尊たる女子教育から着手しなければ決して本當の發達はしないものである。根本基礎を持たないところの教育は架空の教育である。夫で女子教育を欠いて居る處の教育は片輪の教育どころではない。根本基礎を欠いて居るところの教育であると思ふ。是は教育家諸君の明かに御承知のことであると思ふ。當に感ぜらるゝところであると思ふ。そこで女子教育を欠いて居る國は亡國にあらざれば弱國でございませう。然らざれば野蠻國でござりませう。是はもう誰も否定することの

出来ない古今東西の歴史に顯れて居る處の明かなる事實だらうと思ふのでござります。夫で私共は此國家の基礎を築いて眞に此國民を偉大にしやうと思ふならば何うしても女子教育を盛にせねばならぬ。女子教育から始めなければならぬと云ふことは實際であらうと考へる。然るに國民を偉大にするに缺くべからざる女子教育と云ふものは如何であるか、日本の臣民は此教育に對して如何なる感念を持つて居るか、若し今日戦後の經營としまして國防や殖産工業にのみ力を入れて百年の大計を定めんとしたならば――而して、教育事業を後と廻しにするやうなことがで

ざりましたならば、我國は一時勝利を得るも、其の榮譽を永久に維持して往くことが出来ませうか、將來一旦緩急がございしましたならば、我國の國光を損しないと思ふことが出来ませうか、世界に頭を出した日本が世界列國文明社會に立つて、彼等と肩を並へて、文明社會に驅逐して往くことが出来ませうか、固より日本の教育は、日進月歩の歩様であり、決して進まないとは思はせぬ併しながら、日清戰爭以後、他の事業の勃興に比較致しますと、誠に嘆息すべき節々が澤山あると云ふことを自ら感じて居るのでござります。

今是を實際に照して少し考へて見たいと思ひますが、……

米國に於ては千八百八十八年の調査に依りますれば、大學女生徒、但し男女混合大學、或は女子大學の區別なく、總數ば四万二千六百六十三人であり、實に全合衆國男女大學生の百分の三十以上に位して居ります。然るに其後七ケ年間に於ける高等女子教育の進歩は實に著しいものであり、まして、女生徒の數も段々増加致し、大學の新たに出来たものも少くござりませぬから従つて、女生徒の數も増して居るとは疑はござりませぬ、今二三の例

を擧げますれば、當時すみす女子大學の生徒の數は四百位  
 でありましたが一昨々年私の参りました時には、七百五十  
 以上に達して居りまして校舎を増築しなければ新入生を  
 入るゝの餘地がない有様でございました、ふりんも一女子  
 大學は當時創立の際でありまして女學生百名に滿ちませ  
 ぬでした。が今日では四百名以上に達して居ると云ふこと  
 でございます。はーばーと大學の如きも一昨年に至りまし  
 て、其附屬女子大學を今の本校に合併致しまして女子にも  
 男子同様の特權を授け、且同一の學位を與ふることゝ致し  
 ました、其他之に類する進歩は數々あります。が餘り管々し

うとございますから申しませぬ、殊に中等普通教育に至りま  
 しては前に申上る通り女學生の方が遙に男學生の數に超  
 過して居りますやうな有様です、斯の如く獨り亞米利加の  
 みならず、歐米の女子教育と云ふものはズツ進んで居る、  
 然るに本邦では二の大學で事が濟むで居る、四千万以上の  
 人口を有する我國には僅に高等學校六ツしかなく、又其生  
 徒の數も彼國の生徒の數と比較して見ても餘程少ない、歐  
 米では教育のために年々歳々巨万の金を費して居るに、日  
 本では僅かの金で濟むで往く僅の學校より要らないと云  
 ふのは何う云ふ譯であるか、金が少ないからであるか、富の

定度が低いから教育を受くる者が少ないのか、夫も原因でございませうけれども、金が少いから學校が立たないのではござりませぬ、未だ教育の普及發達が其處までに達しないからで御座りませう。

合衆國では其圖書館が教育の主動者となつて働いて居るほすどん新約克ひらでるひや市俄高の如き大都會は素より皆各々大きな圖書館があるのみならず山村僻地に於きましても津々浦々に迄荷も人間が少しでも集つて住居して居る處には必ず一の公立の圖書館があつて書物が一杯に藏に滿ちて居ります、毎日其書物は大働をなして居ります、

實に書籍は順廻訓導となつて人民を教育して居るのでござります、此處にもう一つ珍しい事實がござります、此書籍館に往つて餘計書物を借覽する人間は何う云ふ者でござりますか、と云ふと、婦人でござります、洗濯婆や下女や、うんな下等社會の婦人が書籍館から書物を借りて来て讀むで居る、然るに我國では東京に一の圖書館があるのみで讀み手が何れ丈ございますか、能く覺えませぬが、何にしる我國の圖書館の一つでもあるのは、賀すべきことでありませぬが、彼の大都會なる京都大坂には一の圖書館もござりませぬ、村々に往きませすれば、何にも無い之を以て見ても、未だ日本

の教育の充分に普及して居らないと云ふことが分るふと思ふ。

一体我國に於きましては一番遅れてゐる事業は百年の大計を要する事業で何分之は只形而上の事のみならず形而下の事もそふであります。それで事業の中で一番發達しなればならぬ事業が一番遅れて居ります。我國で一番大切なる事業は何であるかと云ふに私は山林事業であると思ひます。我國のやうに山の多い國はない其山に繁りて居ります。處の樹の利益と云ふものは莫大なるものでござります。又其山林の川河に及びず影響と云ふことは是亦實に非

常あるものでござります。即ち其山林の伐採の仕方に由りまして或は干魃にもなり或は洪水にもなるものであります。實に恐るべきものであります。然るに此山林事業が一番後と廻しにされて居る有様であります。一番研究の附かないものは山林事業であらうと思ふ。而して教育事業と云ふものは山林事業よりも其結果は目前に現れない仕事でございまして殆ど人民の眼には形は現れて來ない夫であるからして人々は此問題を等閑に附す傾きがある。殊に女子教育は男子教育より結果が能く現れまい。夫故に尙更人が打遣つて擱さすすけれども此女子教育と云ふものは最も



大切なものであつて、是は實に國家の隆替盛衰に關係する事業でございませう、然るに唯眼に見へる目前の事ばかりに眼を着けて仕事をして居りましたならば、此百年後の日本は何うでございませうか、諸君の御承知の通り、五十億ふらんくの償金を取られ剩へあるさすろうれんの二州を割かれたる佛蘭西は、其屈辱を雪ぎ、其鬱憤を霽し、其國威を宣揚するため、大なる事業に着手した、其事業は何であるか、教育事業である、殊に女子教育事業でございます、固より佛蘭西と日本とは、其事情を異にして居る、佛蘭西は負けて日本は勝つて居る、併しながら勝つて兎の緒を緊めよと云ふ

ことは、今日服膺すべきものと存じます、私は此日清戦争の勝利と云ふものは、教育家の勝利であるようにいゝますが、併し教育家たるものは、今日の現狀に安じて得意になつて、深く考へ遠く慮らなくして、夫で教育家たる者の責任が竭されて居ると考へて宜しうございませうか、是が即ち私が自分の不肖を顧みず、女子教育の振起策を講じて見たいと思ふ所以でございます。

現今我國女子教育を由ひ起すに種々様々の方法がござりませうが、私の卑見に由りませすれば、詰り是は二の方法に歸すると思ふ、其一は下から上に及ぼして往くのと上から下

へ及ぼして往くのと、斯う二つであると思ふ。即ち初等教育から段々高等教育に及ぼし、高等教育から初等教育に及ぼして往くと云ふ此二つである。即ち上下兩端より同時に着手して、相應援して相共同して行つて往くと云ふことでございませぬ。之を近い例を擧げて言ふて見ますると、今日我國に帝國大學と云ふものがござりまするからして、そこで我國の中學校や小學校が今日の如き有様を呈して居るのでございませぬ。是丈進歩して居るのでございませぬ。また今日小學校や中學校があるからして、現に大學校があるのでございませぬ。女子教育も其通りでござりまする。初等教育から、段々高

等教育を施して、普及發達せしめると云ふと、高等教育から初等教育に及ぼして往くと云ふと、即ち下から段々高い處に及ぼして往くと云ふのと、高い處から下へ及ぼして往くと云ふ、斯う云ふ二つの方法に歸しやうと思ふのでございませぬ。是は私の考でござりまするが、其振起策として三ツの項を擧げたいと思ふのでございませぬ。

第一は教育家自身が警醒すること。

第二は女子教育の方針を確定すること。

第三は女子に高等教育を施すと云ふこと。

今日我國で、女子教育は男子教育に較べますと、振はな

つて居る此やうに女子教育が振はないと云ふことは私の考へる處では其罪は誰に在るか色々な人があるが最も先に責めなければならぬのは教育家うれ自身である何せ教育家の罪であるか教育は今日眠つて居る元氣がない何せ元氣が赤いやうになつて何せにふれて来たかど云ふと女子教育を行つて今日迄に色々な失敗を重ねて来まして、其失敗を懼れて居ると云ふのが一の譯でございますもう一つは一般の人々が女子教育の事には冷淡に成つて居るからして、自然と教育界が活氣を失つて来たど云ふ二の譯だらうと思ふ初め女子教育のために手を焼いて大失敗を

來して居るから大に懼れて再び手を出して見る勇氣がない其失敗から段々弊害が生じて來て居る是は本までございます弊害は確かにある私は確かに認めて居りますそこで斯う云ふ弊害が起つたから其弊害を懼れて女子教育に手を出すならば再び弊害を來すであらうと云ふことを恐れて引込主義になつてまあ觸らぬで措た方が宜いど云ふことでないかと思ふ而して自らが唯だ仕込主義を執つて居るならまだしもの事自らが教育の必要を説いて聽かせて世の先導者どもならなければならぬ處の身分でありながら却て女子教育の弊害のみを説いて矯正策は講じな

い、弊害は困つたものだと言つて、第一に教へて居る斯う云う工合に、世間一般に冷淡であるからして、教育界も矢張冷淡になつて、睡氣を差して居る。そう云ふことでは何うも私共は濟まないと思ふ。何うでも宜いことなれば、眞に國家を思はぬならば、其でもよいが、眞に百年の日本でない、万年の我國を思ふならば、私共は然う云ふ有様で居てはならないと思ふのでござります。

凡物事には一利一害と云ふとは免れぬものであります。少しも弊害を生せず、利益ばかりを取らうと云ふとは何しても出来ないものでござります。失敗を爲ぬで成功しやうと

云ふことはどうも出来ぬものでござります。詰り此失敗と云ふ教師に、教育されて夫から後に成功するのであります。私共は失敗と闘はなければならぬ、弊害と闘はなければならぬ、軍をせむければならぬ、軍をせずして勝利を得ると云ふことは決して出来ぬ。此教育事業も戦争同様でござります。何うしても負るともあれば勝つともある。勝つてばかり居ると云ふことは何うしても出来ない。日清戦争は負けたことはない。御しやる方もありません。是は相手が弱かつたからの咄です。若し相手が佛蘭西、露西亞のやうな、凡そ同等の力の有る國とやれば、うう旨くは往かぬ、負け

り勝つたりして、遂に終局の勝利に畢るより仕方ないのである。彼華盛頓或は彼得帝の如き、實に英雄豪傑で大勝利を得た大將でございますけれども、彼等は又初めから勝つたのでなくして、彼等の軍は殆ど連戦連敗幾ら負けても決して屈しない、負けて益々雄を鼓し、敗れて益々計を運らし決して一朝の敗北に恐れて憶病神に取付かれて、仕込主義を取らず、益々勇往敢進すると云ふ氣象に富んで居つたから、彼等は勝つたのでござります、彼得帝は何と云ひましたか、我に戦勝を教へたものは我敗北である、我敗北が我に戦勝を教へたと言ふて居ります是が勇將の勇將たる處でござい

ます。女子教育も其通りで何れ手を出したならば、失敗することもございませう、又弊害の生ずるともありませう、従つて攻撃する敵が起つて來る、さう失敗を怖がり唯放任主義を執つて打棄て、措て、夫で我國の女子教育が完全になりませうか、何時改むることが出來ますか、振つて來ますか、女子教育を改良せず、措て、全般の教育と云ふものが振つて參りませうか、若日本の全般の教育が發達しないならば如何にして日本を偉大なる國民とすることが出來ませうか、そこで私共は此處に思ひ切つて失敗と闘ひ弊害と闘はなければ、我々の目指すところの勝利は得られまいと思ふ。

今此處に他の國の例を擧て見まするに、今日一番女子教育の盛なる國は亞米利加でござります、亞米利加が初めからあゝ云ふやうに、女子教育が盛になつたと思ふのは大變な間違である。

スミス女子大學を起したスミス夫人の郷里に白髮の爺さんがありませす、此人は能く其當時の有様を記憶して居りまして、私に嘗て言ふて申しますには、はつと云ふゝるど郡の住民にして、大に勢力ある何某と云ふ者がありました、此人は男子としては一人も無く、女子のみ多く持つて居りましたが、此女兒をば公立學校に入學させやうと思つて之を衆議に

訴へた、其理由とする處は、私は私に教育費を出して居る學費を出して居るけれども、私は男兒を持たないから何うか女兒を入學させて呉れと云ふた其時に、全郡擧つて其人の説を攻撃したと云ふことでござります、亞米利加で女を教育しない學校に入れないなかつたのは、ついで此間迄のことであつたのでござります、米國に於きましても、最初は女子教育は非常に女の身体に害を與へるものである、女の身体を玉無しにして仕舞うだらうと云ふ説があり、又實際弊害もあり、攻撃もあり、失敗もあつたけれども、亞米利加の間は決して失敗を怖がり、攻撃を懼れなかつたのみならず、益々改良を

加へて悪い處は改めたのでございませす、今日亞米利加の大  
 學の女學生の身体は立派である、英國に於きましても亦同  
 一でありますが、不列顛醫學雜誌に「吾人は今日に至る迄次  
 代の國民に關して往々悲しむべきの豫言を聞きしも今や  
 預言の時代は將に迅速に其終りに達せんとす、烏兔匆匆二  
 十六年の星霜は経過しまて、吾人は見て以て果して悲むべ  
 きの國民なるや否やを斷定すべきの新國民は出來せり、然  
 るに學位の稱號を有せる母親の子供は學位を有せざる普  
 通の母親の子供と同じく、健且つ美なるを見る、而して子供  
 の健且つ美ならざるものあるは、正しく兩親の罪惡と不羈

生より來るものにして、決して兩親が教育を受け身自らを  
 制し又は心を使ふより生ずるものにあらざるや明白なり  
 と申ました様に英國に於きましても、女子がケムブリヂや、  
 オックスフォールド大學で男子と同一の學科を研究するこ  
 との出來る様になつてから、既に二十有餘年でありませす、  
 更に身体を害した證據は見ませぬ、此の大學教育と女子の  
 健康との關係に付きましては數年前英國のシヂウヰツク夫  
 人が調査致しました結果に依て見れば、十分明瞭でありませ  
 す。

此間日本の高等女學校及び帝國大學の統計表を見ました

が、其統計表に依つて見ますと、高等女學校及大學の生徒の體量や肺量杯が減つて居る是は何うも教育の行り方の十分でないといふ處から、さういふ結果を表はしたのでございませぬ。夫で何うしても何處の國でも色々の失敗弊害の起るものでござりますから、其弊害と闘ひ、其失敗と闘はなければ、本當の發達の點に達することは出来まいと思ひます。私は今日滿堂の諸君に對して、又我國の教育界に對して、熱望するところは、今日は私共が女子教育のために傍觀して、何うなつても構はないと云つて、打やつて措く時ではないと思ふ。今日は女子教育の必要を、御互に力を合せて唱道致

しましたならば私共が熱心に女子教育のために竭しましたならば必ず我國の教育の有様は一變して來るであらうと思へるのであります。

處が此處に一の難問題がある、或は諸君の中にさう云ふ御感じがあるかも知れませぬが、夫は私共は固より女子教育の必要を知つて居る、此教育の大切なりと云ふことは、切つた咄でございませぬが、女子教育を主張するに未だ女子教育の方針が十分に立たない、何うして宜いか分らないと云ふことでございませぬ、此頃女子大學を興したい考がございまして、有名の教育家學者其他有力の人々に面會致



しました。が、其の時最も能く私の聽く處の説は、何うも女子教育については困ると云ふのが、一番能く聽く聲である。夫から何うして宜いか私共には未だ考案がない。私は女子教育に就て調査研究する邊がなかつたから、此事に就ては宜いとも悪いとも云ふことは出来なす。斯う云ふやうな説が多いのでございませす。随分有名な人の中にも、さう云ふやうに感じて居られる方があるのでございませす。是は私は何うも、教育家自身が既に其方針に迷ふて居るからして、畢竟女子教育が振はない原因をなすのである。と思ふ。實に日本の女子教育の有様は、方針が定まらない未定の有様である。そ

うして唯其儘に打棄て、置ては何時迄立つても方針が定まらない。此第二維新ともいふべき大切なる時代に於て、女子即ち國民の半數を占めて居る處の女子を教育する方針が立たない。と云ふて、私共は此教育をさう構はないで措て宜しいか、世間一般の人は或は夫でも宜いか知れませぬが、少くとも教育家——教育に従事する處の者は、是非職務上深く研究調査して、女子教育の方針を確定すべきでないかと思ふのです。此方針を極めることは六づかしいやうであります。が力を出して行りさへすれば、出来ることであらうと思ふ。何ふしたら宜しいか、方針が何うも立たないからと云

つて、手を束ねて居る譯には往かない机の上で愚圖々々考へて居り、書物を讀むでばかり居つたど云うても、本當の方針と云ふものは立つて來るものじやあるまいと思ふ、先づ方針を確かめ定めて、さうして以て行つて見る、試験して見る、經驗して見る、即ち實驗に訴へて行つて見ると云ふことも一つはしななければならぬ、もう一つは學理に照して研究調査して見ると云ふこともなくてはならないであらうと思ふのでございます、併しながら、是迄のやうに唯狼りに輕卒に方針を定めて、獨斷的に極めて、朝極めたものが、夕べに動くやうなことで済まないののでございます、此處に女子

教育の方針を定むるに必要なる條件は二つあると思ひます、其第一は女子の天性能力と云ふものを、研究調査して女子の能く働き得べき一般の範圍を極めること、第二は國情上時勢上より即ち社會的觀察を下して、此一般の女子の働き得べきの範圍に變更増減を加へて將來日本婦人の當さに働くべき範圍を定めて來ると云ふ此二ツであります、それでこの二のことが極つて來ますと云ふと、此女子教育の方針と云ふものが自然極つて來やうと思ひます、私が聊か研究しました結果の項目表を申し上げますれば、  
第一女子を人間として教育すること。

第二女子を日本婦人として教育すること。

第三女子を日本國民として教育することです。

此區別順序を過つたからば片輕の教育になりませう、此區別順序に就て私は色々申上たいけれども、もう時間がないから項目丈擧て置かうと思ふのであります。

夫から私は女子教育の方針の一として又振起策の一端として、高等女子教育と云ふものを主張致します處が此高等女子教育と云ふものは、随分攻撃のあるものでござります、第一の問題は、若高等教育を行ると云ふと、日本の普通教育、初等教育を妨げやしないか、もう一つは未だ日本の初

等教育と云ふものは普及して居らぬのに、此處に高等教育に着手するのは順序を誤つて居りはしないか、斯う云ふ議論がございます、私は此處に此高等教育を行ると云ふのは、初等教育を妨ると云ふことでない、反對です、初等教育を助けることゝ考へます、今高等教育を行ると云ふことは、初等教育の普及を妨るでなくして却て早めて往くと云ふ結果を生ずる考であります、夫で私は辯じて置きたいと思ひます、高等教育を行ふに女子大學を興すと云ふことを申上ますと、或は帝國大學見たやうなものを女のために興すかと云ふやうな疑問が起らうと思ふ、一体此高低上下大小と

か云ふやうなことは、比較的の語でございませう、即ち高等教育をやるに云ふは、現在あるところの程度より高い處の程度に高めると云ふこと、大きいものをやるに云ふことが、高等教育に云ふ意味であります、即ち私が高等教育或は女子の大學を設立しやうと云ふのは、女子現在の者よりも進歩したる發達したる程度に高め而して社會の進運を計ると云ふ希望であります、換言すれば、高等教育を行ると云ふことは、今日の女子の智力、體力、徳力を今日のものよりも高めると云ふのでございませう、今日女子教育の弊害が多い、依つて兎に角此弊害を取除いて、完全なる女子教育を進めたい

いと云ふ意味でございませう、即ち今日は半出來の婦人が多いから、もう一層進めて全くあるまで、女子教育を行つて見たいと云ふ冀望である、夫で決して帝國大學で讀むで居るやうな書物を讀ませると云ふやうな考へでは無ひのです、もう一つ是に就て辯じて置きたいです、此教育と云ふもの……教育の精神は、さう云ふ間違はないと思ひますが、教育と云ふものは、書物を教へることであるから、完全なる教科書と善き教師とさへあれば出來るやうに思ふ人もあるかも知れませぬが、是は大なる間違である、固より完全なる教科書と善き教師は、教育の要素であるが、其外之に勝りて決し

て劣らざる要素が二つある、其一つは遺傳であります、もう一つは抱圍であります、此遺傳と云ふものは大切のものであると云ふことは誰も不同意はない、然るに此遺傳と云ふものを善化利導すると云ふことは實に百年の計で一朝夕には出来ぬことでございます、此遺傳に就きまして一番重い原因は私は結婚であると思ふ、結婚上の悪弊や過失は悪い遺傳を作るところの重要な原因であると思ふ、然るに、今日我國に行はれて居る馬鹿らしい婚禮と云ふのは、實に私共は常に認めて慨歎して居る處であります、これも女子教育を高めて、智育徳育を進めて往つたら自ら止

ひで仕舞ふだらうと思ひます、どういふ風に結婚の弊習を改めたならば、此遺傳と云ふものは大に改進して來るに極つて居る、もう一つは將來に干係がある、一番大切な關係を持つて居る、婦人の智徳を進めましたならば、其社會の有様が變つて來ると云ふことは事實であらうと思ふのでござります、女子教育と云ふものは、目前の結果が見へないけれども、是は大切な事業であつて、一日も忽に出來ないものであらうと思ふ、それで今日女子教育に弊害の多いと云ふことは女子教育其もの、罪でなくして、教育家及教育法の罪である、且亦今日の女子教育の弊害又は男子教育の欠點

と云ふ者は決して獨り教育當局者ばかりの罪ではないので、社會の罪が大に與つて居ります。家庭の風儀が亂れて居る事やら母親の話らない事などが大に加勢して居ります。然るに高等教育を受けました女子が殖えて來ます。其影響と致しまして必ず社會の惡風と云ふ者が改まり家庭の風儀が善くなりますから自然の結果として家庭教育と社會教育とが善化致しまして學校教育に協同助力し従て完全なる教育を施すことが出來、本眞の人間を作ることが出來ると思ひます。

もう一つ申して置きたいと思ひますが、前に高等教育と教

育の普及發達との關係を述べましたが私は高等教育と云ふものが、女子教育振起策の一と云ふ所以は三、四個條とざります。其第一は若し此處に高等教育を施しますと、一般の婦人が其處まで進みたいと云ふ希望が生じて來る。其處まで進みたいと云ふ希望を以て居る女子が殖へて來ると、今度は中等まで進みたいと云ふ女子が殖へて來ると、今度は初等教育と云ものが盛になつて來ると云ふのは、是はもう明白なる事實だ。うと思ふ。次に高等教育を施すと云ふことは、完全の女教師を殖やす、女子教育の一番缺けて居ることは、教員の良い者か

ないといふことで御座ります。又本當の高等教育を、女子に授けますと、賢母良妻が出来るに相違ありません。お轉婆であく、謙遜な淑女が出来るに相違ありません。そうして、段々、高等教育を受けた女子が、女徳を備へ、淑女であり、賢母となり、良妻となりまして、社會に現るゝに至ります。時には、一般の女流社會の智識德行を刺戟致しまして、從つて社會を改善し、教育を普及發達せしむるに相違ないです。若し正當な高等教育で、女學生の高慢とか、我儘とか、粗暴とか云ふものを除き去つて、淑女を養成する様にあつた時は、世人が女子教育の機能を覺り、女子教育の必要を感じ、女子教育を是認する

るに至り、大に女子教育の盛大を來すに相違ないです。でありますから、實地に高等女子教育をやつて、眞正の女子教育の價值を世人に認識させるのが最も急務であります。米國に於ても、大學教育が女子に及んで、一般の教育と云ふものが進んで來た、普及して來たのでござります。一例を舉れば、一郡に一人の娘が女子大學を卒業すると、その一郡の女子教育が發達普及致しました。

今日日本國民は、外國人が我國に入込んで、我國の女子を辱かしめると云ふて、大に憤慨して居るけれども、是は實に我國の女子が愚であるからでござります。無學であるからで

ござります、若しもう少し智識が進んだならば、さう云ふ馬鹿なことをしない私は、此日本の今の遺傳を改めるために、國民を強くするため、に高等教育を施して、高等の智識を女に與へることは——醫學生理の智識を吹込むことが必要である、と云ふことを深く感じて居ります、それで我國の女子教育は、もう少し醫學上の智識を與へぬと大間違であらうと思ふ、此醫學に暗い處からして、種々の弊害を來すものが随分多くござりませうと思ひます、各女學校に少し醫學の分つたところの教師を置いて、体操教育をするの必要を感じて居る、夫で女子に醫學と云ふ高等の智識を授けて、段々

此醫學上の智識を以て、——夫に外の智識ももつと進んで参りましたならば、大に我國に今日ある處の不道德や、不養生は無くならうと思ふ、夫で英國や、或は米國の、是まで高等教育を授けてから、以來二十年間の成績を以て調べて見ますと、高等教育を授けたために、一般女子の健康と道徳を進めました、故に英米にをきましては、二十年前から見ると、今日は女に醫學の智識が進んで居る、従つて女學生の身体が大變に進歩して居る、學校に這入つた時より卒業して出る時は進んで居る、學校に這入らぬ者より、學校の生徒の方が能あつて居る、決して女が高等教育を受ける様になつてから、



國民が小さく弱くなつたなど云とは云はれない私は是  
 まで亞米利加の例を多く引きましたから諸君の中に或は  
 私は亞米利加の女子に心酔して居ると云ふ疑があるかも  
 知れませぬが決して私は心酔して居らない私も亞米利加  
 の女子の弊害を認めて居る随分其弊害を感じて居るけれ  
 ども是は教育其もの、罪ではない彼國風俗の罪である私  
 が亞米利加の教育制度を條計引いたと云ふものは亞米利  
 加では二三十年間の實驗に照して行つて居る其結果も此  
 處に關れて來て居る故に其國民の云ふところのものには  
 大變注意を傾ける價値があると考へて居ります又女子

教育を擴張する材料として随分必要と思つて居りますか  
 ら此處に引用した譯でございます。  
 終りに臨んで私の希望を結んで申せば何うか我日本國民  
 を少壯なる國民にしたい若い國民にしたい偉大なる國民  
 にしたいと云ふ希望でございます。此偉大なる國民にする  
 少壯なる國民にするには何うしても女子教育を振起しな  
 ければならぬ然るに今日の日本女子教育の現狀でありま  
 す。前へ申した通り萎靡として振はざる有様であります  
 から之を振ひ起さぬければならぬ。即ち一つは上より下に  
 及して此教育を振起すること、夫からも一つは下より

上に及して振ひ起すことにしあければならぬ而して之を  
 成すには第一に此教育家たる者が目を醒さねばならぬ唯  
 世間の攻撃や些々たる弊害に怖れて居つたならば何時此  
 教育——女子教育と云ふ者は振つて参りませう第二に其  
 教育の方針が分らぬと云ふならば益々教育家たる者は之  
 を研究して方針を確定してやらなければならぬ第三に此  
 教育家たる者が管に初等教育ばかりに目を着けて居つた  
 ならば十分の事は出来ませぬから初等教育に手を附ける  
 と同時に高等教育に手を附けて上下兩端から行つて相助  
 けるやうにしまして一方には女子を益々進歩させ一方に

は一般女子教育の上に刺戟を與へたりと云ふことを希望  
 する譯でございます併し今日私の述べましたのは重に「ブ  
 リンシブル」Principleでござりまして細い方法に亘る時間  
 かなかつたのは誠に私の遺憾に存じますとこゝろでござり  
 ます(拍手大喝采)

女子教育談終

明治三十年四月十八日印刷  
全三十年四月廿五日發行

定價金拾五錢

東京市日本橋區通一丁目十七番地

編輯兼發行者 青木恒三郎

東京市日本橋區上槇町十六番地

印刷者 平島 曠

東京市日本橋通一丁目

發賣所 青木嵩山堂

大坂市心齋橋筋博勞町

全 青木嵩山堂

勢州四日市港堅町

賣捌所 嵩山堂支店

東京市日本橋區上槇町十六番地

印刷所 八重洲橋活版所

文部大臣侯爵西園寺公望公題字  
華族女學校長從三位細川潤次郎先生序  
成瀬仁藏先生著

# 女子教育

西洋綴菊版形三百頁

正價三拾錢郵稅六錢

日本帝國國民が戰捷後の日本の國威を振張し國光を發揚し以て富強の國民として世界に横行濶歩せんに必ず先づ國民の素養を女子教育に起さる可らず、蓋し根本を家庭に有せざる教育は架空の教育なればなり、本書が戰捷の翌春を以て、諸君に見ゆる、實に偶然にあらざる也。本書は内國の女子教育に多年の經驗あるのみならず、數年間女子教育最盛の間

へ高き北米合衆國に遊び、そが學理と實地とを探究見聞せられたる成瀬先生の筆に成りたるものなれば、架空の論陳腐の説にあらざるは細川先生の序文に云へるが如し、教育家、子女の父兄、及女學生諸君は勿論苟も邦家の前途を憂ふる者の必ず座右に欠く可らざる良書なり。本書の高評大略左の如し

### ●時事新報

……開卷第一に過古現在の女子教育の變遷を論じて方針を定めんことを主張し、其方針として女子の高等教育は或る事を教へて或る場合に適せしむる人とするよりは人物の品格を作る所の普通教育により、凡べての場合凡ての境遇に於て其人物を發揮せしむべき基を作るにありとし、夫れより章を分ちて智育德育藝能に説き及ぼし實業教育の必要を説きて已む奇論妙策人を驚かすものに非ずと雖も内外古今の例に據り交ふるに實驗上の成見を以てし醇々然として

説く所女子教育を輕んずるものをも首肯せしむ所あるべし

### ●東京日々新聞

……從來女子教育を説く既に其人あり之に關するの著書亦從て少からずと雖も未だ今日に至るまで女子教育の筈踏たるべきものに乏しきは當に吾輩のみならず世の教育に熱心なる者の私に憾みする所なるべし今者成瀬氏の著に係る本書を觀るに素より嶄新奇峭平地に波瀾を起すの卓論なしと雖も要するに氏は元と女子教育に實驗あるの人乃ち其學説の如き調査の如き頗る精覈にして鑿々能く肯綮に中り、且洋化主義と國粹主義の中庸を取て説の我田に水を引くが如き偏執の嫌ひなきは即ち本書の一頭地を抽く所以なり文章も亦平易流暢にして澁難の跡なし、余輩は此書が女子教育に裨補する處と少からざると共に百日の大旱を備すの雲霓たるを疑はざるなり（發行所青木嵩山堂定價四十錢）

### ●國民新聞

……本書著者成瀬仁藏氏は學説に交ゆるに實驗を以てし、其の言ふ所鑿々肯綮に中せり……章を逐ふて新説の疊出する

を見る

# 大朝日新聞

……女子の高等教育を論究せんとし其米國遊歴中の蘊する所と女子教育に従事すること十數年の實驗とを以て之を近時の國勢と女子教育の現狀とに照し裊然大冊を成し先づ女子教育の方針を論じて其論據を定め智育德育體育及び實驗教育の各目に就き説述して遺すなし其方針を論ずる曰く女子教育の時弊は實用教育に偏して普通教育を忽諸に附し去るにあり。曰く女子の天職を盡すに足るの資格即ち道徳智識藝能及び體格を養ふべき。曰く國民たる義務を完ふするに足るの素を作るべき。換言すれば今後日本の女子高等教育の方針は第一女子を人として教育すること、第二女子を婦人として教育すること、第三女子を國民として教育すること、著者の女子教育に於る大旨觀るべし、夫れ我邦の女子教育を説くもの、輒近以來一熱一冷、泛々として其根據の確立しあるを開かず、徒らに風潮を逐ふて、其面目を飾るに近きの觀なくんばならず。……著者の信ずる所を公にして、

今の浮泛なる女子教育界の人士を警醒せんとする、洵に得難しとする也。

# 大毎日新聞

……詳密に調査の結果を網羅し、且つ著者の所見を述べ……女子教育の論世に出づるもの多くして疑問亦た少なからず。蓋し著者の如き會て専ら之を攻究し現に其局に當るもの其論皆な依據する處あるは固より言ふを待たざるなり。

# 女學雜誌

……著者成瀨仁藏氏は、大坂梅花女學校に、新瀧女學校に、多年女子の教育に従事し、其の後米國に渡行し、諸大家に親炙きて精かに女學を研究せられたる人也。こたび、題號の書を新刊し、歐米名家の論證を豊かに引用して、女子の現狀態に對する意見を發表せらる。第一章教育の方針、第二章智育、第三章德育、第四章體育、第五章實業教育に分ちて仔細に精緻の論を盡す此の類の書に於て未だ會て有らざるの確實豊富なる論材を有す。就中體育の一章は、ことに斬新の實見多きを覺ゆ。美育の一章を欠きたるは少しく憾むべし。

要するに女學漸く挽回するの今機に際して如此良著作を吾學界に得たるは祝すべきの限りなり。

## ●教育時論

……著者は曾て米國に遊びて彼國女子教育の景況を觀察し、又久しく女子教育に従事して研究實驗の功を積む。此の如き人によりて此の如き書を著はす以て其の書の杜撰に非ざるを知るべし。……博く海外教育大家の學說、及經歷談を引證し、立論精確、文章流暢、女教を裨益せんと、蓋し尠少ならざるべし。

## ●早稻田文學

……教育が只管實用的専門教育に傾きて、普通教育を排するの風あるに慨して此書は著されたり……著者は今後日本の女子教育の方針を論じて曰く……本編は主として高等女子教育を論究したる者也……の五章に分ち尙ほ幾多の項目を設けて巨細に論述せり。……著者は久しく米國にありて彼地の教育事業を觀察し、女子教育に於ける多年の經驗あるの人なれば其の言鑿々として據る處あり。目下女子教育一頓挫の時世の教育の方針につきて迷へる者に取

ての好律後たるは疑ふべからず、文章も亦平明解し易し。

## ●六合雜誌

……著者は洋化主義を取る人にもあらず、然ればとて泥古主義即ち頑固なる國粹主義を取る人にもあらず、寧ろ折衷主義を取る人あり。……次に一種の女子大學様の専門學校を設立せんとを期し、其より著者は女子に外國語を教ゆるの利害に就き、又女子高等教育の程度に就き、委しく論ずる處あり……著者が宗教と教育との關係を論ずる處甚だ公平にして頗る吾人の意を得たる者あり……著者が體育殊に本邦女子の體育を重んずるは頗る同感にして……著者は此等の問題を解釋せん爲め先づ全體の體育の略史を掲げ亦歐米諸國現行の體操法を掲げ、一々之を批評して其優劣長短を明白ならしめたるは頗る參考の價値あるなり。次に著者は本邦女子體育の振起策として第一に日本體育學を起すべし、第二に體育教師養成場を設くべし、第三に美麗の標準を變更すべし、第四に早婚の弊を矯正すべしと云ふ……されば著者が智育德育體育を以て「教育の三位一體」と稱し、殊に智育と

體育との我國現今の女子教育に急務なるを稱導するは、宜なりと云ふ可し。……行文頗る平易にして而かも明白全編を貫くに著者の誠實と熱心とを以てす。今日女子教育の衰へたる時代、殊に世の師父たる者が如何に女子を教育すべきやに關し五里霧中に徘徊する時代に於て本書の如きは實に時を得たるもの否女子教育の方針を指定するに足るの指南車なりと云ふべし。

● **同志教育雜誌**

……女子教育 本書は著者が多年の實驗に得たる成案を論述したる者にして苟も女子教育に直接若くは間接に關係する事故は舉げて之を漏らさず周到緻密見るべきの議論少からず就中英語教授法の如き獨り女子教育に資するのみならず一般語教師の參考とすべし處あり。

 **Bookkeeper**

Deacidification for Libraries and Archives

August 2013

